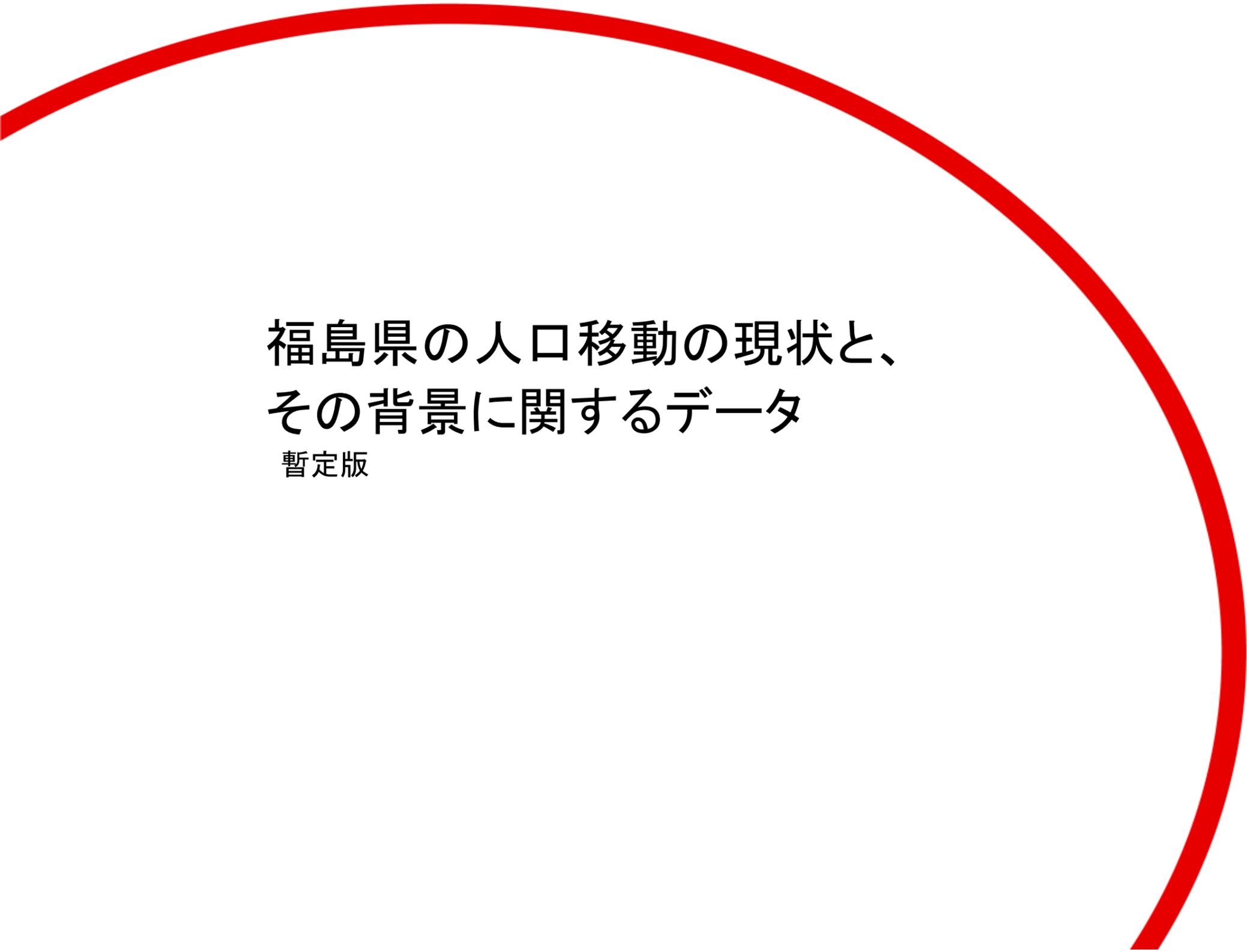


EBPMによる人口減少対策 「地域別人口データ集」(速報版)

令和7年9月8日
福島県復興・総合計画課



福島県の人口移動の現状と、
その背景に関するデータ
暫定版

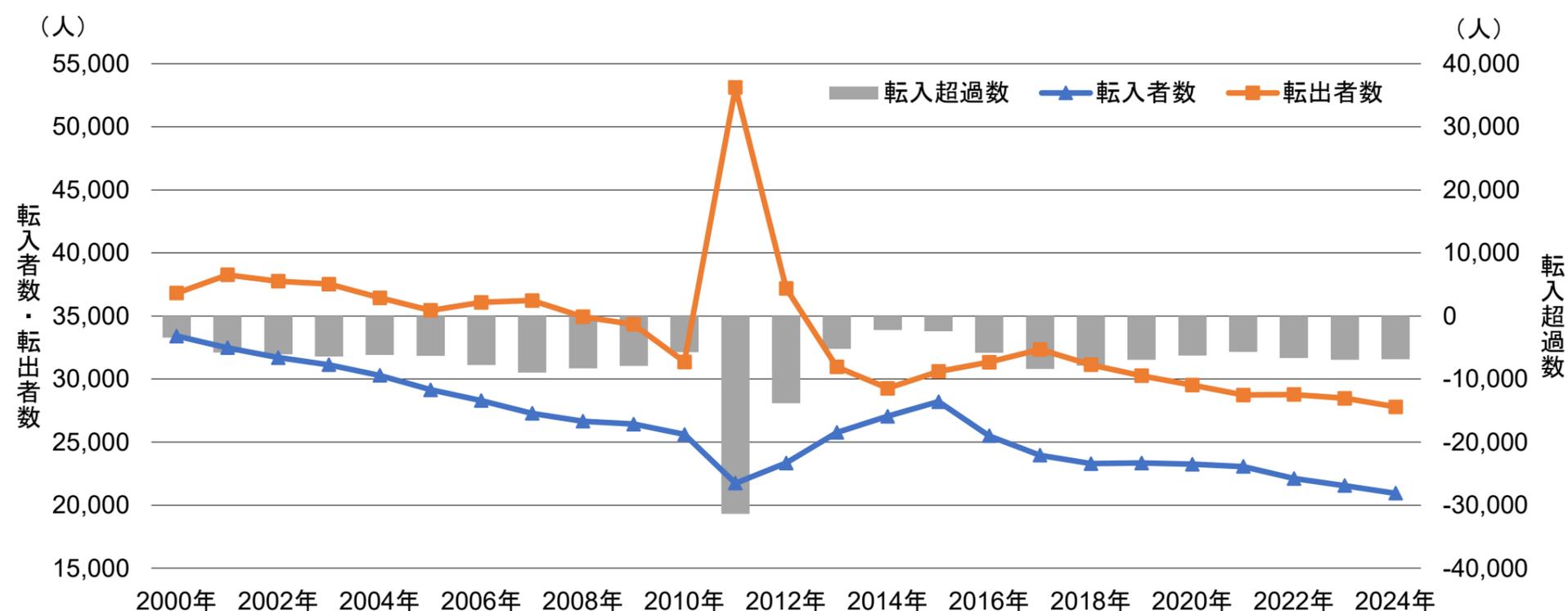
人口動態

2017年以降、7000人前後の転出超過が継続

福島県の社会減少の状況

- 東日本大震災の影響で転出超過が30,000人を超えた2011年以降、2014年にかけて転出超過数は減少傾向であったが、2015年以降再び増加に転じている。
- 2017年以降、転出者数・転入者数ともに減少傾向となっており、転出超過数は毎年7,000人前後で推移している。

図表 福島県の社会減少の推移



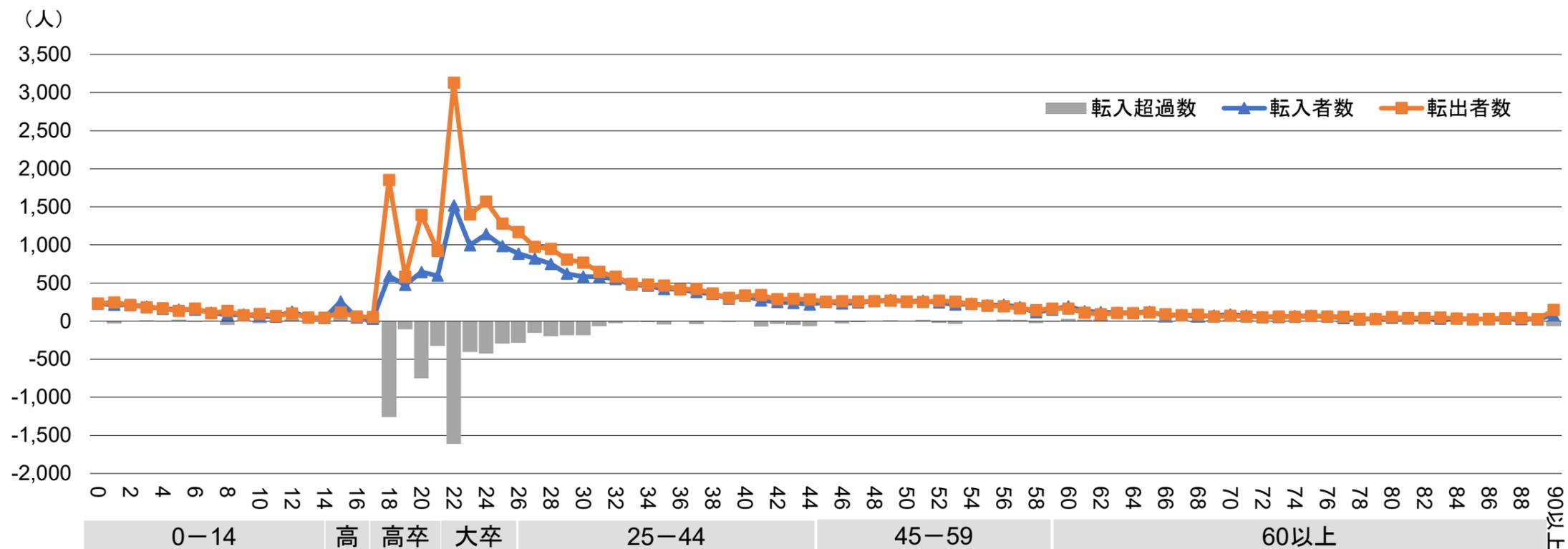
(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

転出超過のピークは18歳と22歳、30代も転入超過なし

福島県の社会減少の状況

- 年齢各歳別に見ると、人口移動は18歳から20歳代に顕著であり、大学卒業時の22歳がピークとなっている。その他では18歳、20歳、24歳が大きなポイントとなっており、30歳代以降は収束していく。
- 18歳～20・30歳代までの若年層では、いずれの年齢でも転出超過状態にある。

図表 福島県年齢各歳別転出入(2024年)



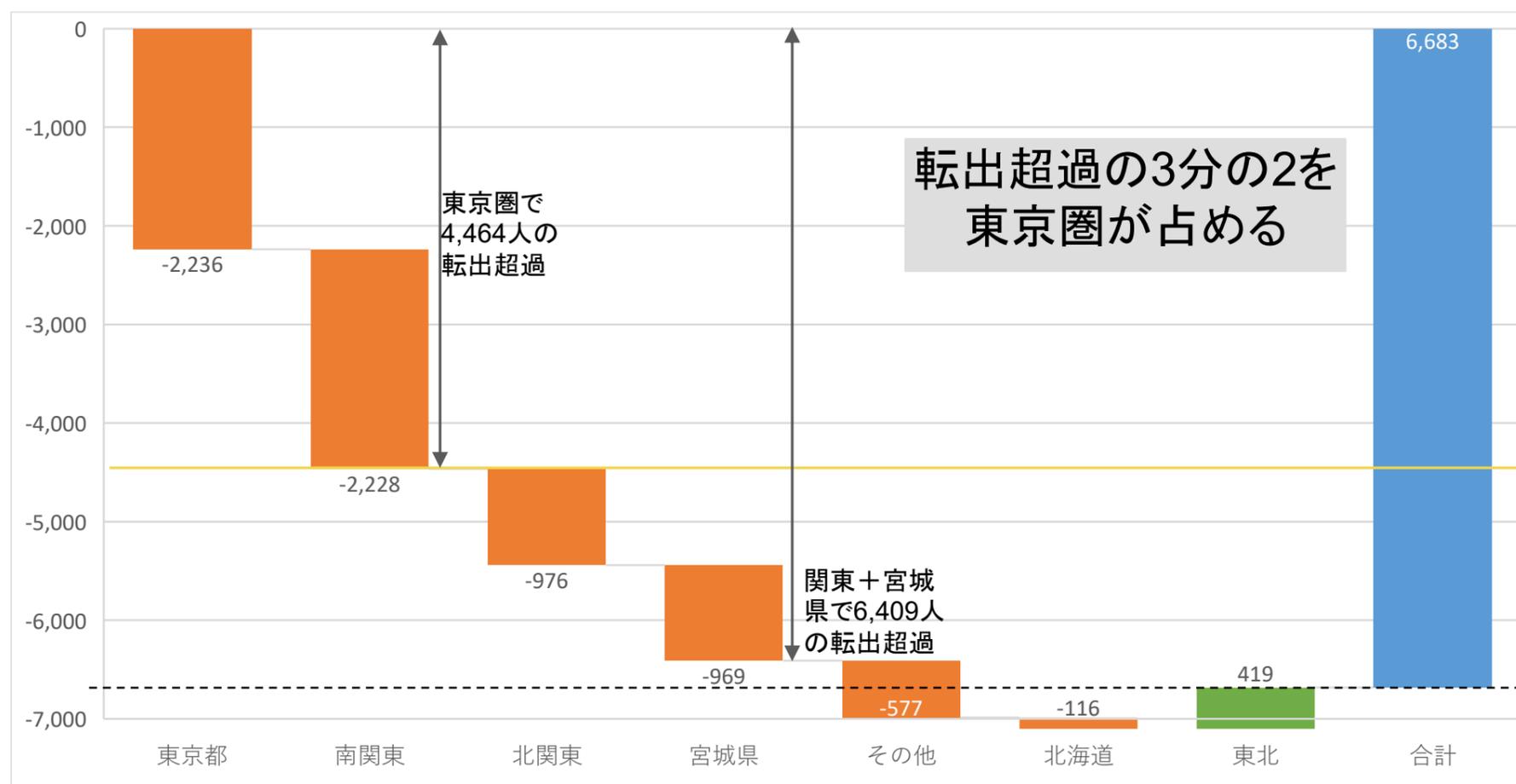
(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

転出超過の2/3が東京圏。関東+宮城県で転出超過全体の95%超

転出超過の全体像とボリューム感

- 2024年における県外への転出超過数は6,683人であるが、転出超過先を地域別に集約すると、東京圏の1都3県だけで4,464人となっており、これは転出超過全体の3分の2以上に相当する。

図表 転出先地域別転出超過数(県全体)(2024年)



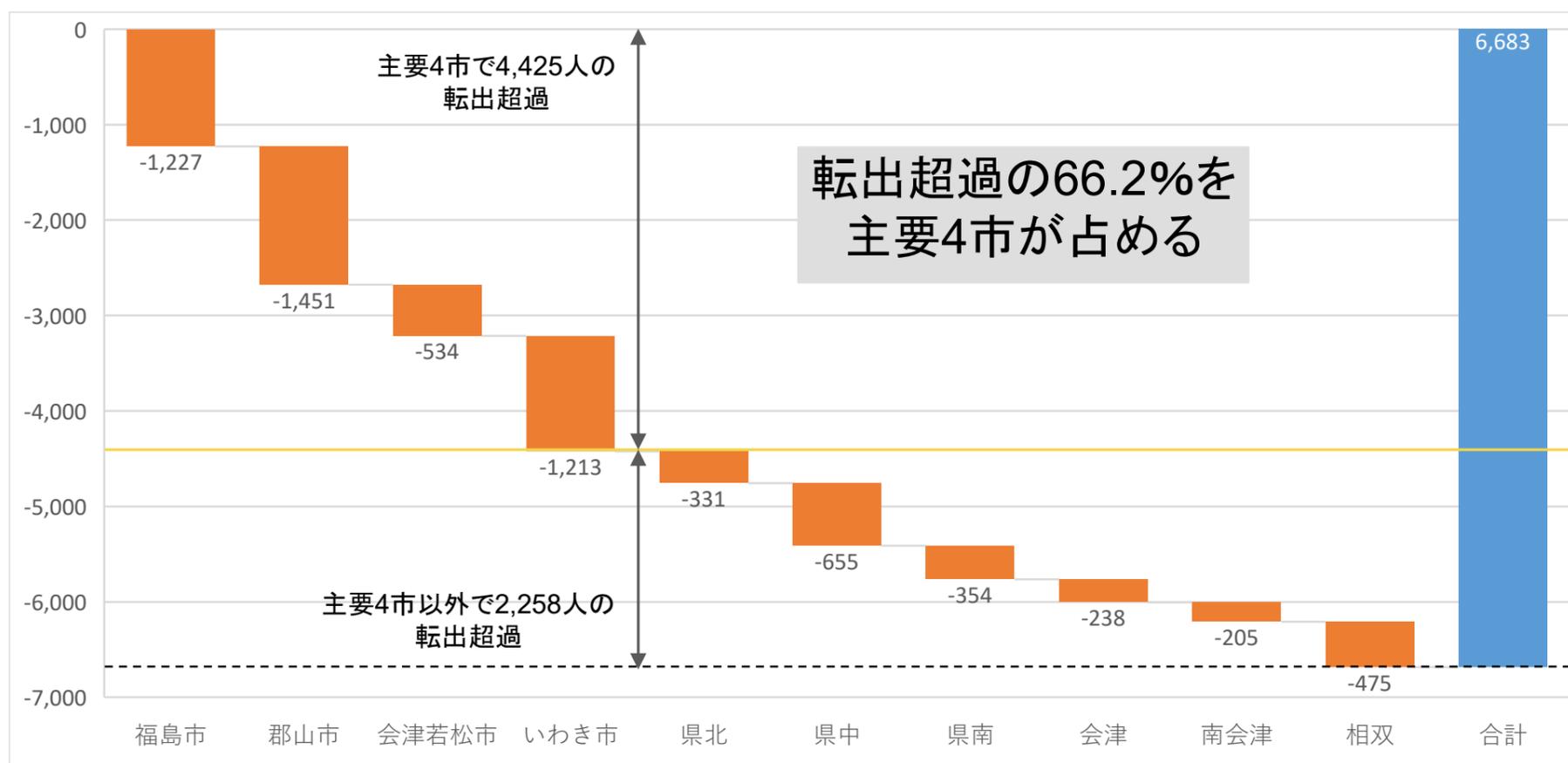
(注) 北関東:茨城県・栃木県・群馬県 南関東:埼玉県・千葉県・神奈川県
(出所)内閣官房「住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表(2024年)」

地域の中核となる主要4都市で転出超過の2/3を占める

転出超過の全体像とボリューム感

- 県外への転出超過6,683人のうち、地域の中核となる主要4市（福島市、郡山市、会津若松市、いわき市）からの転出超過が4,425人となっており、転出超過全体66.2%を占めている。
- なお、主要4市の人口の合計は約101万人であり、県全体の人口に対する比率は58.7%である。

図表 県内エリア別転出超過数(2024年)



(注)人口は令和7年7月1日現在の推計人口(福島県統計課)

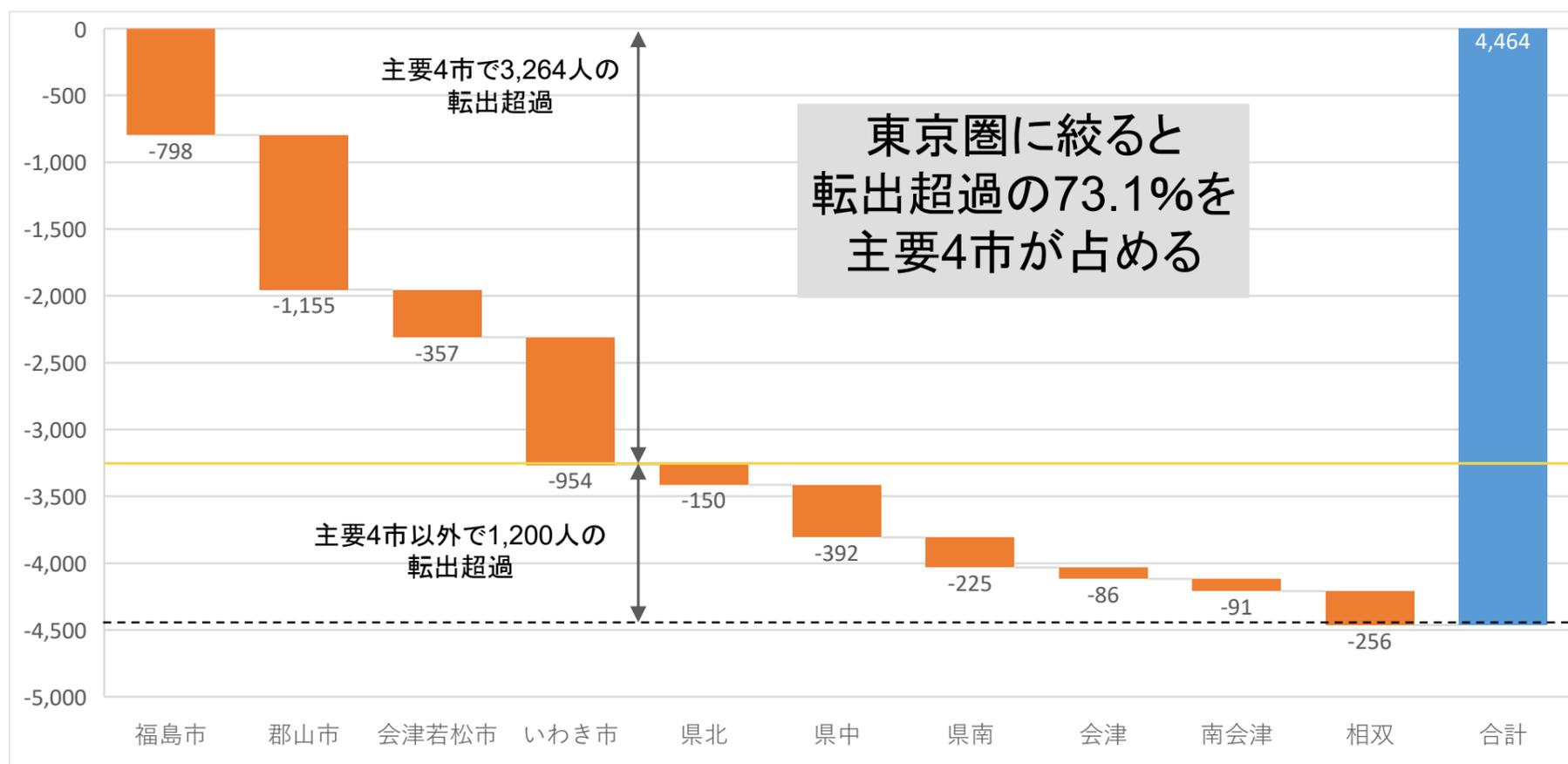
(出所)内閣官房「住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表(2024年)」

東京圏に絞ると転出超過の7割超を主要4市が占める

転出超過の全体像とボリューム感

- 県外への転出超過のうち、転出先を東京圏に絞ると、主要4市からの転出超過が全体に占める比率は73.1%と、さらに比率が高まる。

図表 県内エリア別、東京都・南関東への転出超過数(2024年)



(出所)内閣官房「住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表(2024年)」

主要4市と県北地域に県内から転出者が集まり、そこから大量に県外へ転出

転出先・転入元の状況(地域別まとめ)

■ 転出がどこに対して多く発生しているか、転出超過がどこに対して大きくなっているか、地域によって傾向が異なる

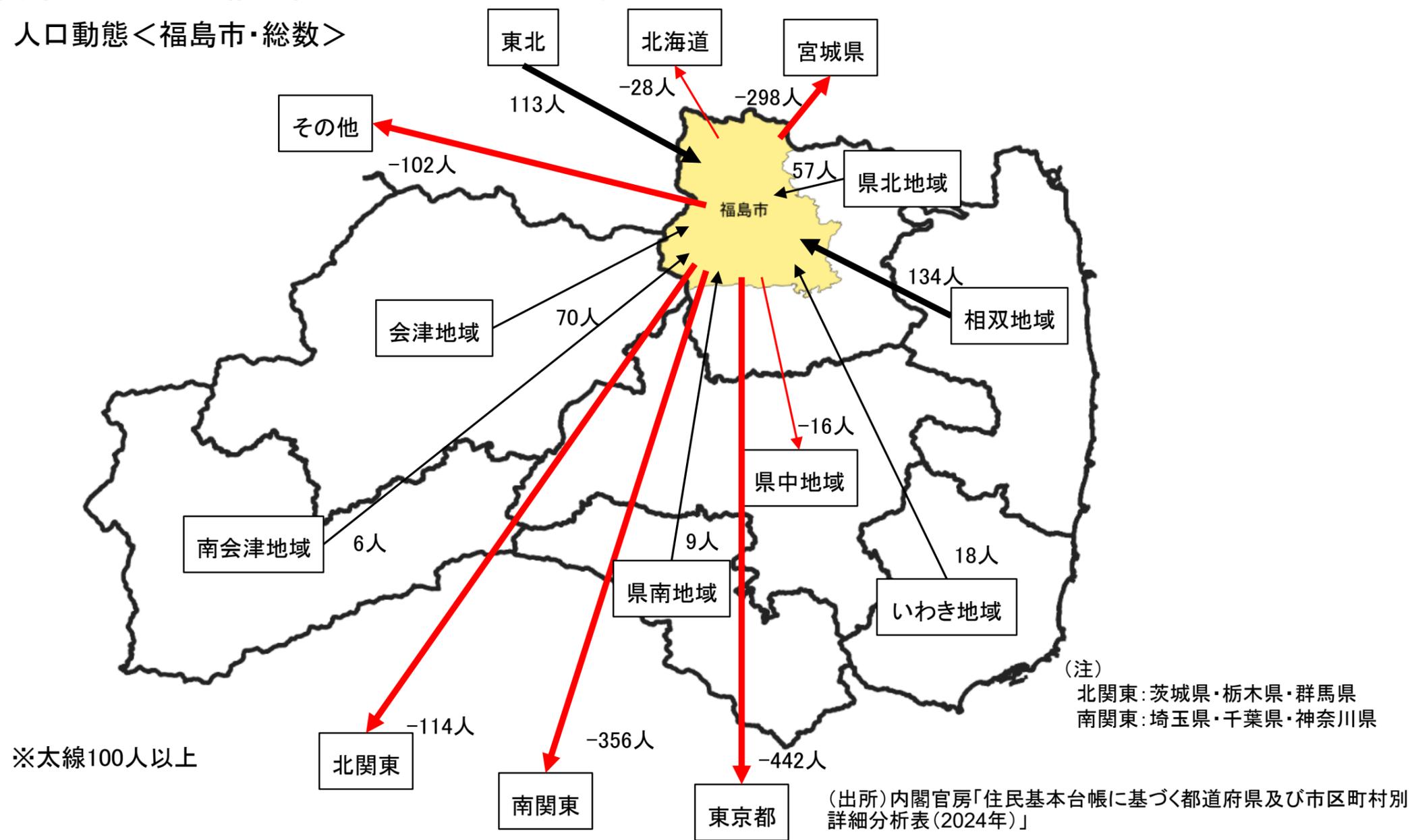
地域名	移動の状況	転出・転入超過の状況
福島市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約63%が県外に転出。 ■ 主な転出先は南関東、宮城県、東京都。 	<p>主要4市は県内に対して転入超過 県外に対して大幅に転出超過</p>
郡山市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約66%が県外に転出。 ■ 主な転出先は南関東や東京都など。 	
会津若松市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約56%が県外に転出。 ■ 主な転出先は南関東、会津地域、東京都など。 	
いわき市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約74%が県外に転出。 ■ 主な転出先は南関東、東京都、北関東など。 	
県北地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約51%が県内に転出。 ■ 主な転出先は福島市、郡山市、南関東など。 	<p>県北地域を除くと、 県内・県外双方に対して転出超過。 会津と相双は県内に対する転出超過の方が大きい。</p>
県中地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約51%が県内に転出。 ■ 主な転出先は郡山市、南関東、東京都など。 	
県南地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約63%が県外に転出。 ■ 主な転出先は北関東、南関東、東京都など。 	
会津地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約54%が県内に転出。 ■ 主な転出先は会津若松市、南関東、郡山市など。 	
南会津地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の約51%が県内に転出。 ■ 主な転出先は南関東、会津若松市、北関東など。 	
相双地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 転出者の63%が県外に転出。 ■ 主な転出先は宮城県、南関東、いわき市など。 	
	<p>主要4市の転出先は過半が県外</p>	
	<p>県北県中は福島市、郡山市に転出</p>	
	<p>会津は会津若松市や県外に転出</p>	
	<p>相双は県外に転出</p>	
	<p>県南は関東に転出</p>	

(出所)内閣官房「住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表(2024年)」(注) 北関東:茨城県・栃木県・群馬県 南関東:埼玉県・千葉県・神奈川県

県内人口動態(全年齢・福島市)

- 福島市については、相双地域や東北地方(宮城県除く)からは転入超過となっているが、東京都、宮城県、南関東などへは大幅な転出超過となっている。

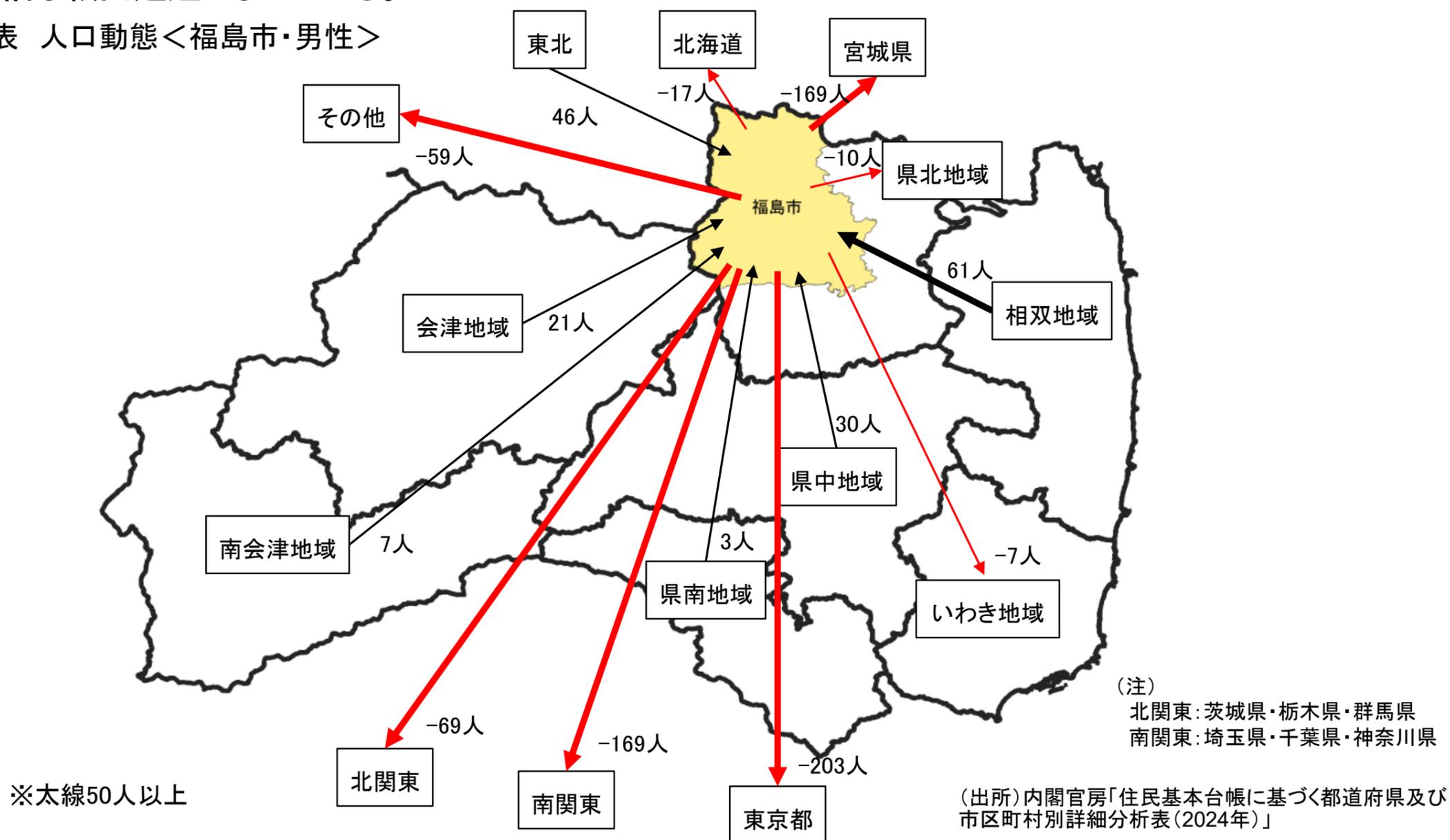
図表 人口動態<福島市・総数>



県内人口動態(全年齢・福島市)

- 福島市(男性)については、相双地域からは転入超過となっているが、東京都、宮城県、南関東などへは大幅な転出超過となっている。

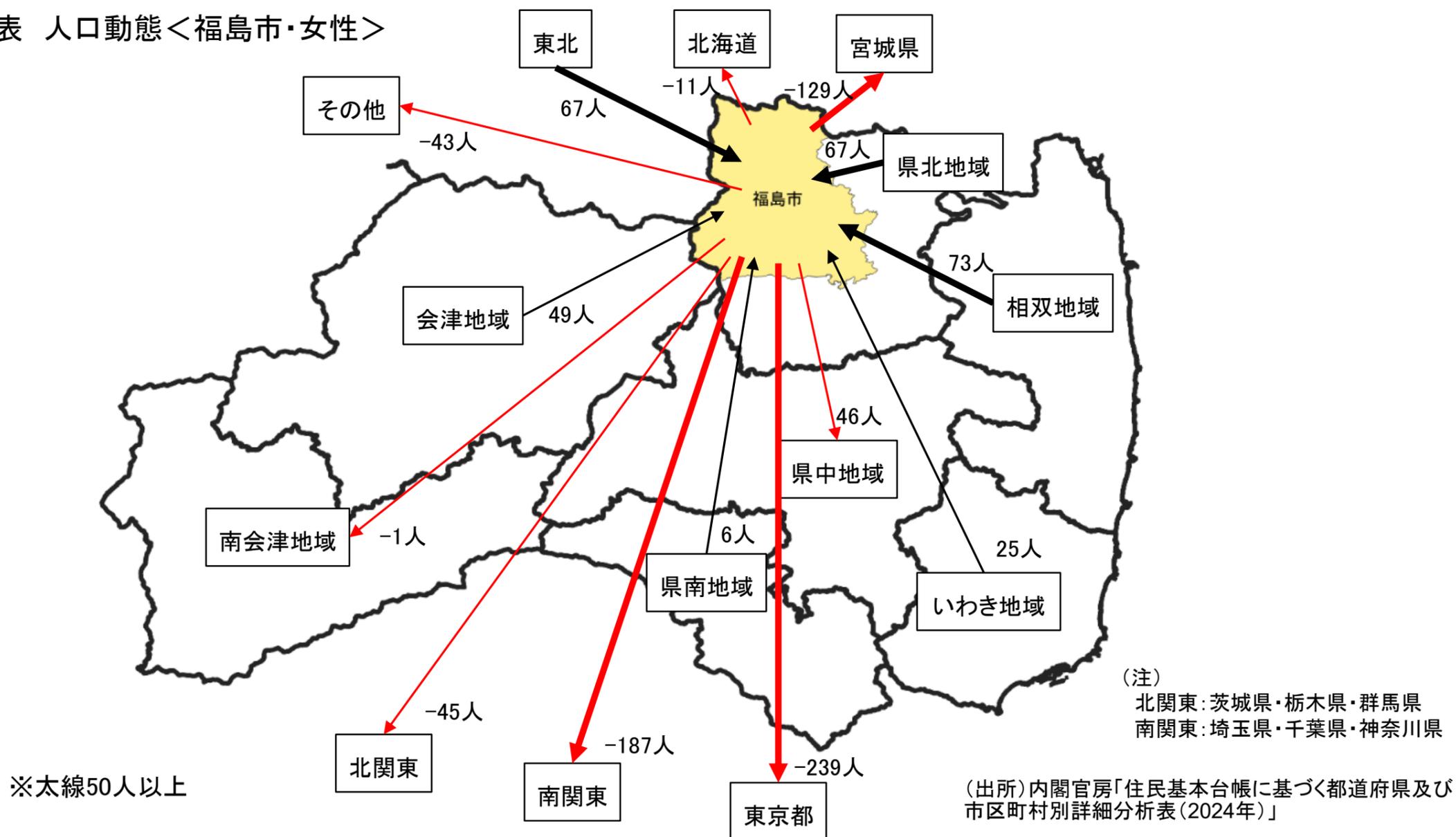
図表 人口動態<福島市・男性>



県内人口動態(全年齢・福島市)

- 福島市(女性)については、相双地域や東北地方(宮城県除く)、県北地域からは転入超過となっているが、東京都、南関東、宮城県へは大幅な転出超過となっている。

図表 人口動態<福島市・女性>



県内人口動態(全年齢・会津若松市)

- 会津若松市については、会津地域からは転入超過となっているが、南関東、東京都、県中地域へは大幅な転出超過となっている。

図表 人口動態<会津若松市・総数>



県内人口動態(全年齢・会津若松市)

- 会津若松市(男性)については、会津地域からは転入超過となっているが、南関東、東京都、県中地域へは大幅な転出超過となっている。

図表 人口動態<会津若松市・男性>



県内人口動態(全年齢・会津若松市)

- 会津若松市(女性)については、会津地域からは転入超過となっているが、南関東、東京都、県中地域へは大幅な転出超過となっている。

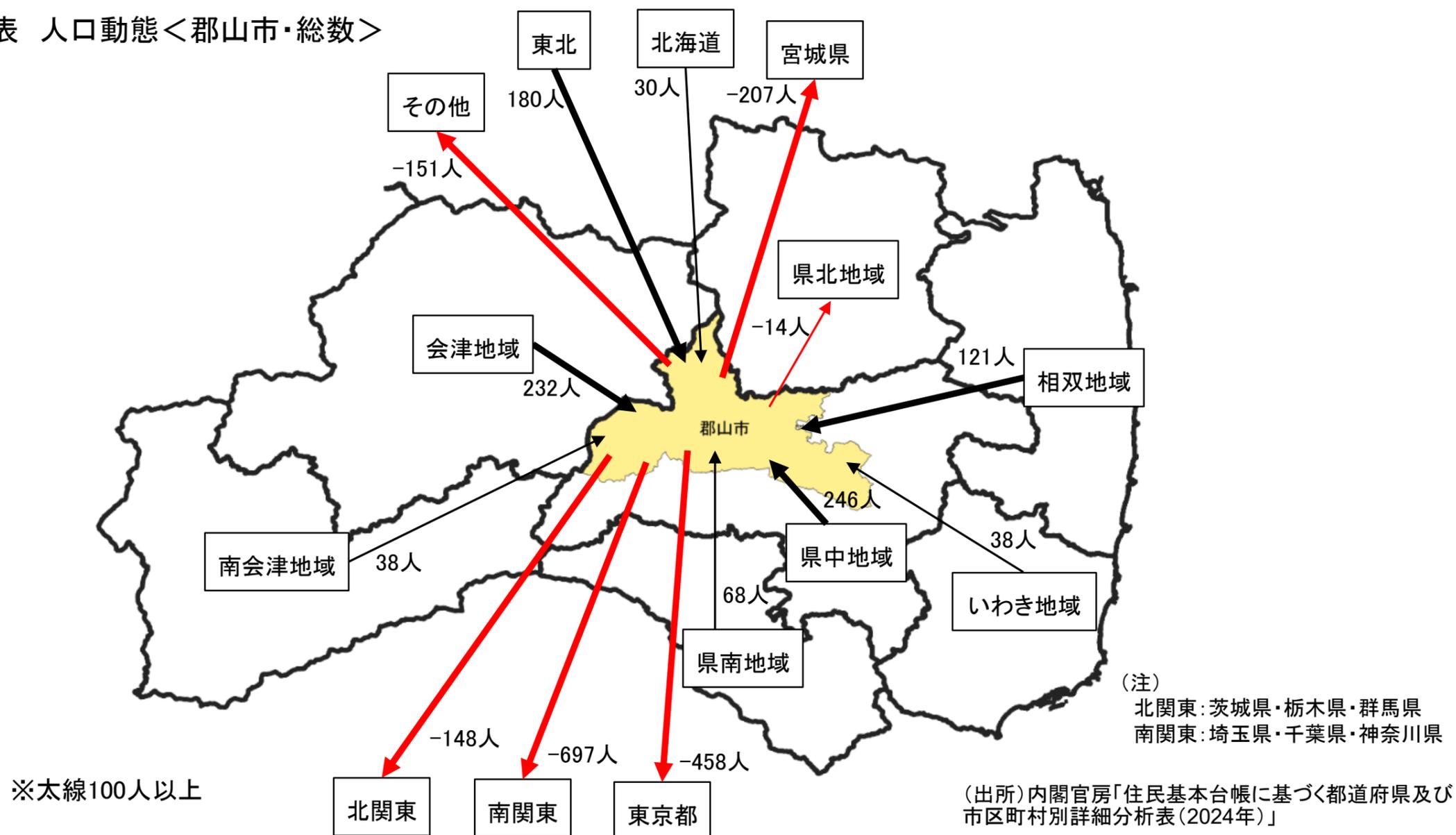
図表 人口動態<会津若松市・女性>



県内人口動態(全年齢・郡山市)

- 郡山市については、県中地域、会津地域、東北地方(宮城県除く)、相双地域からは転入超過となっているが、南関東、東京都、宮城県などへは大幅な転出超過となっている。

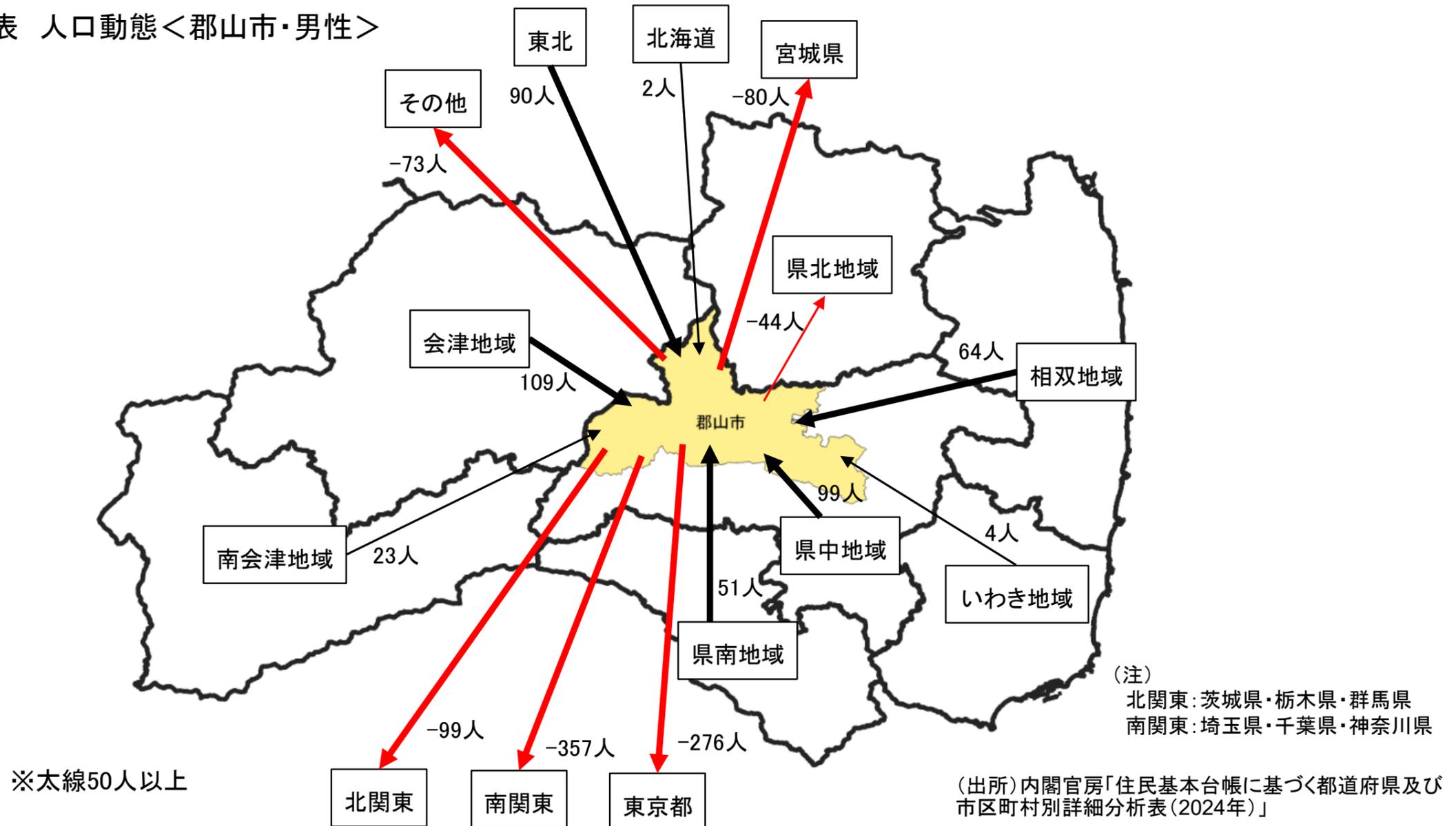
図表 人口動態<郡山市・総数>



県内人口動態(全年齢・郡山市)

- 郡山市(男性)については、会津地域、県中地域、東北地方(宮城県除く)などからは転入超過となっているが、南関東、東京都、北関東などへは大幅な転出超過となっている。

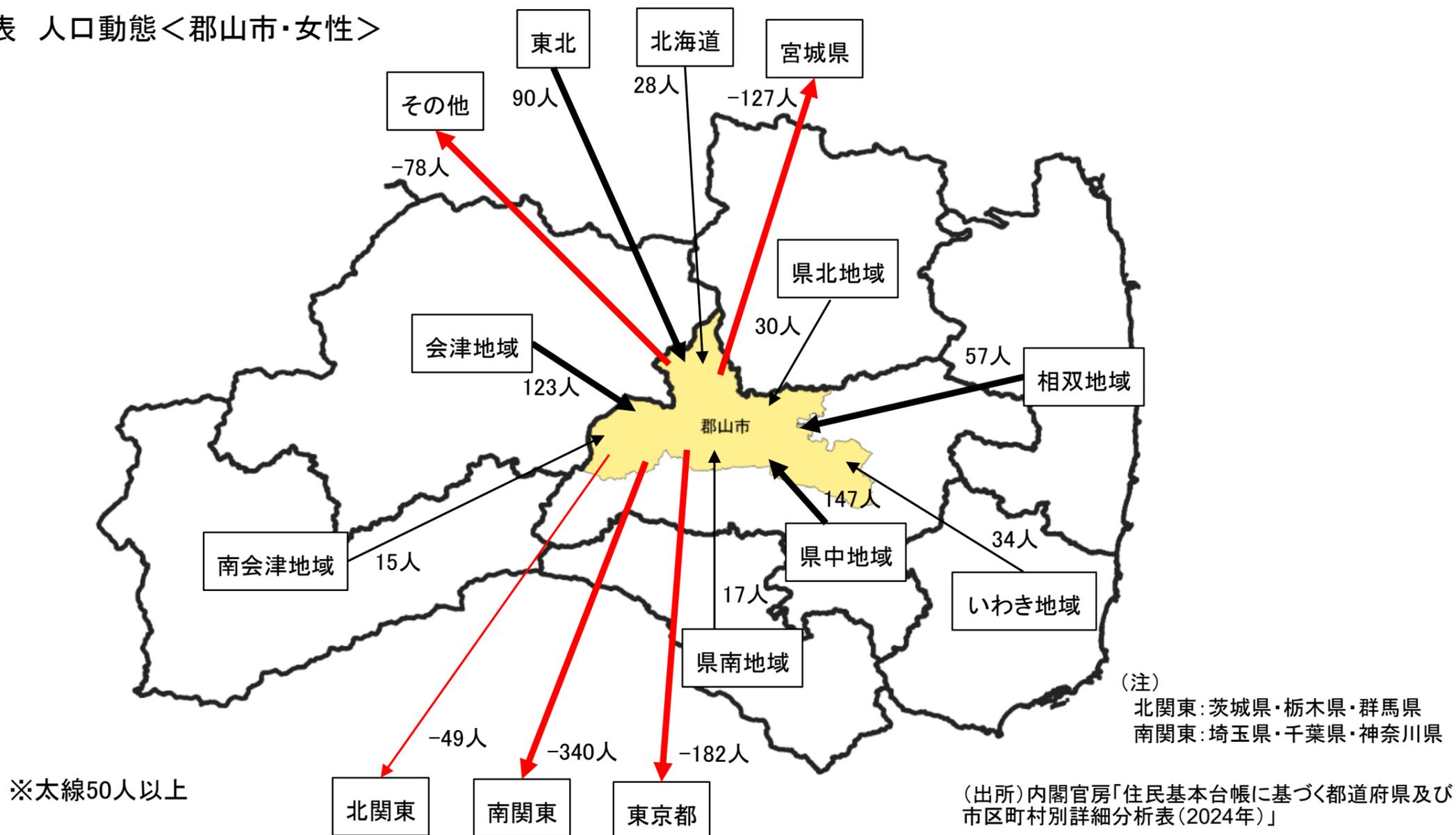
図表 人口動態<郡山市・男性>



県内人口動態(全年齢・郡山市)

- 郡山市(女性)については、県中地域、会津地域、東北地方(宮城県除く)などからは転入超過となっているが、南関東、東京都、宮城県などへは大幅な転出超過となっている。

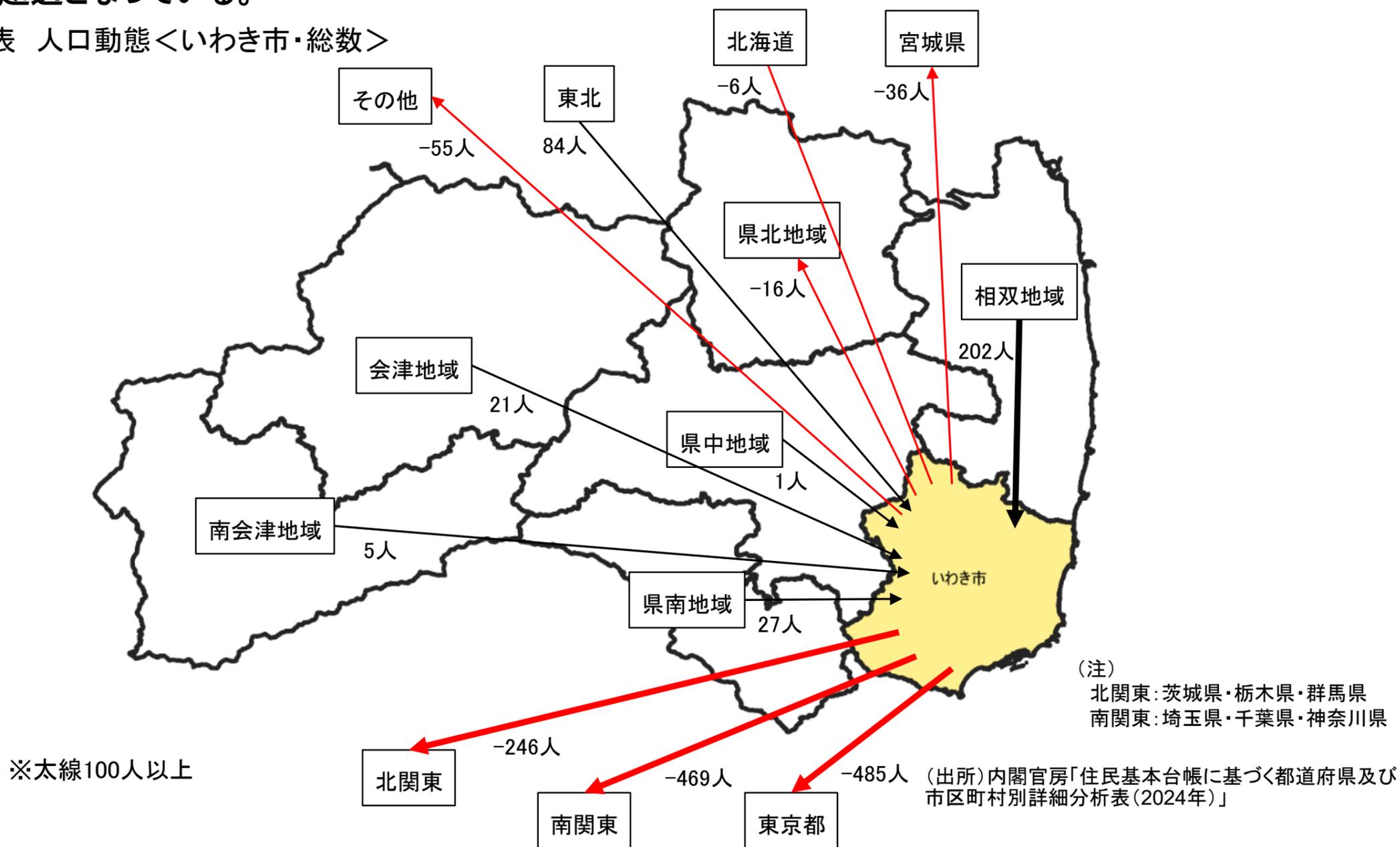
図表 人口動態<郡山市・女性>



県内人口動態(全年齢・いわき市)

- いわき市については、相双地域からは転入超過となっているが、東京都、南関東、北関東へは大幅な転出超過となっている。

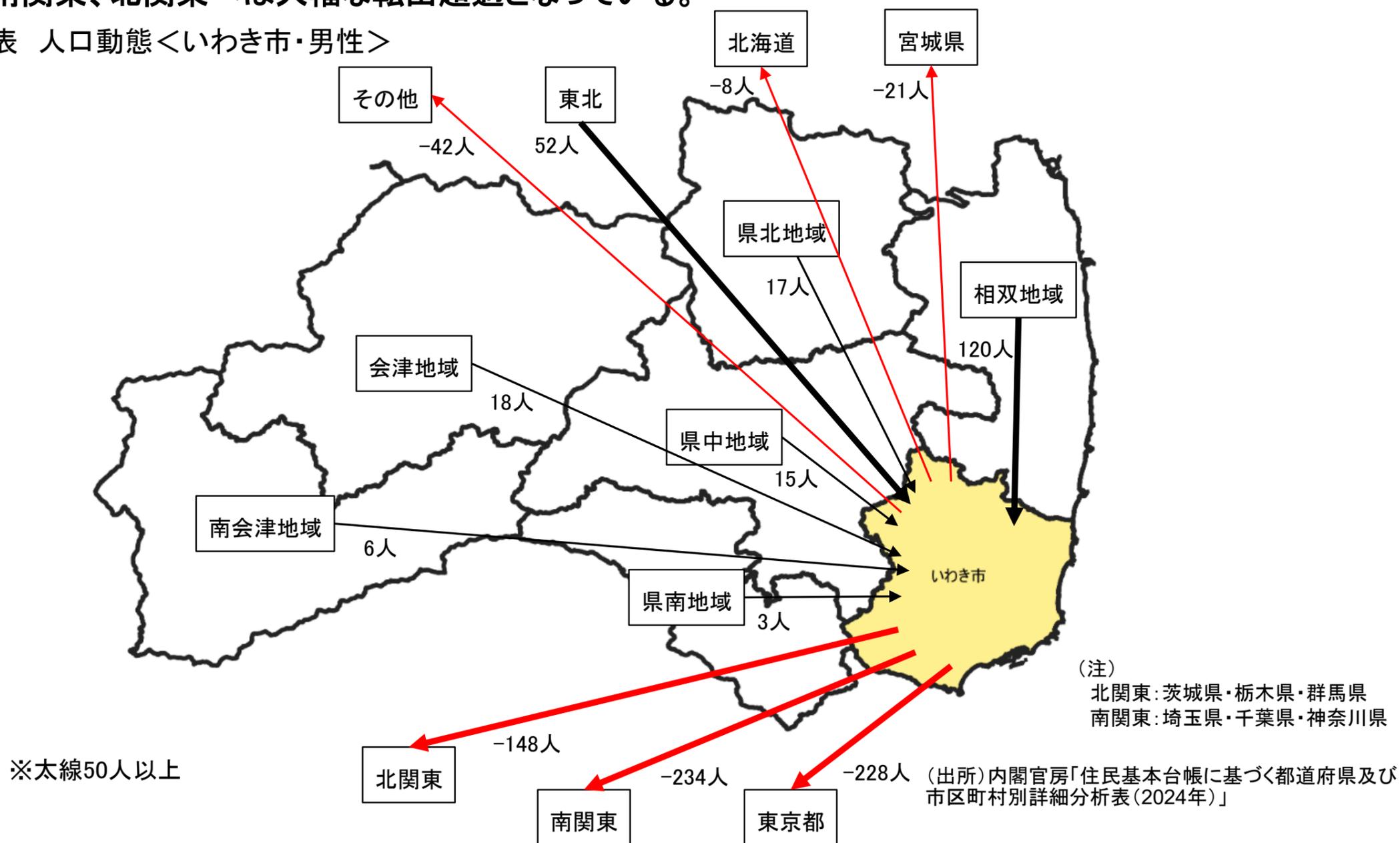
図表 人口動態<いわき市・総数>



県内人口動態(全年齢・いわき市)

- いわき市(男性)については、相双地域、東北地方(宮城県除く)からは転入超過となっているが、東京都、南関東、北関東へは大幅な転出超過となっている。

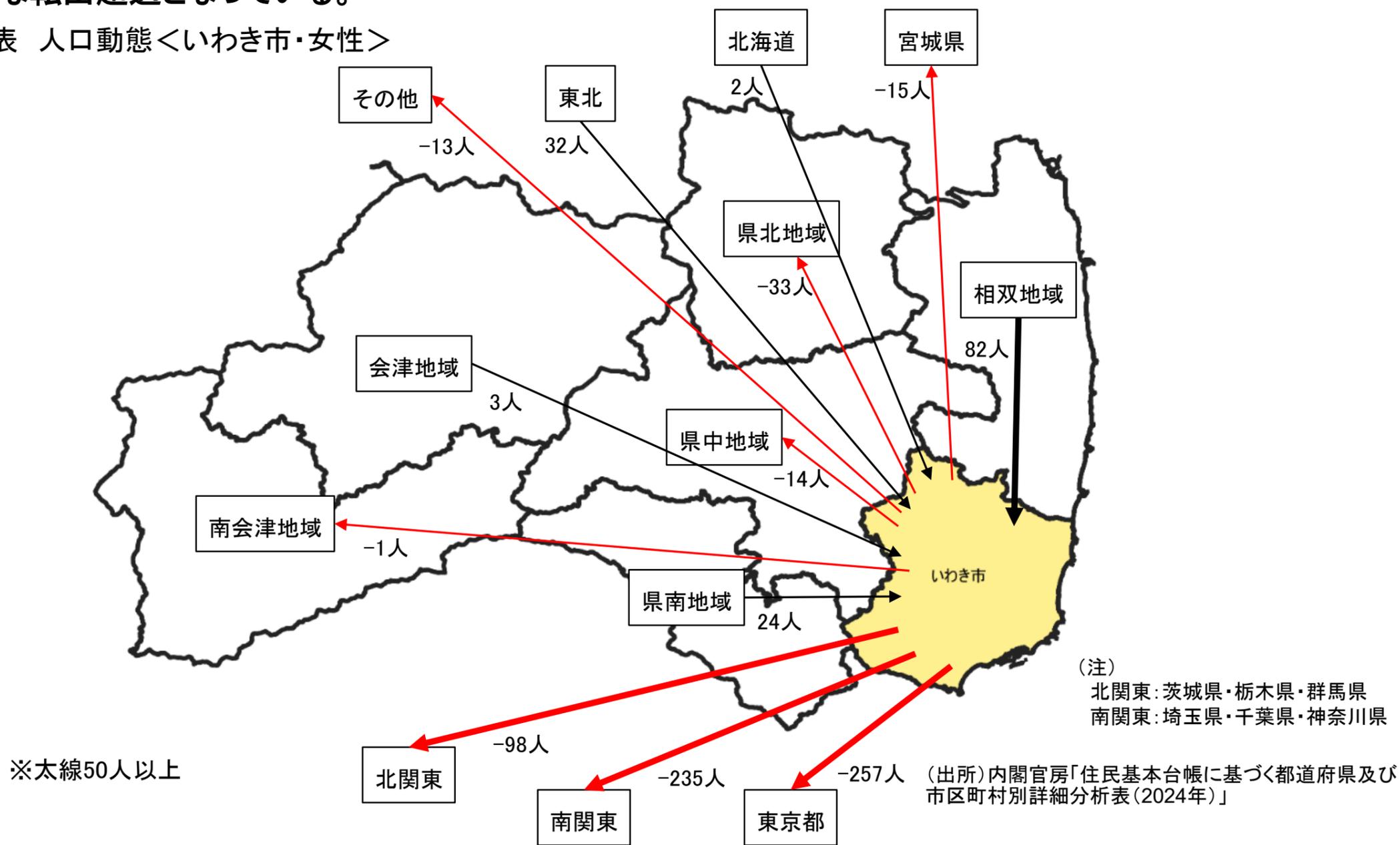
図表 人口動態<いわき市・男性>



県内人口動態(全年齢・いわき市)

- いわき市(女性)については、相双地域からは転入超過となっているが、東京都、南関東、北関東へは大幅な転出超過となっている。

図表 人口動態<いわき市・女性>

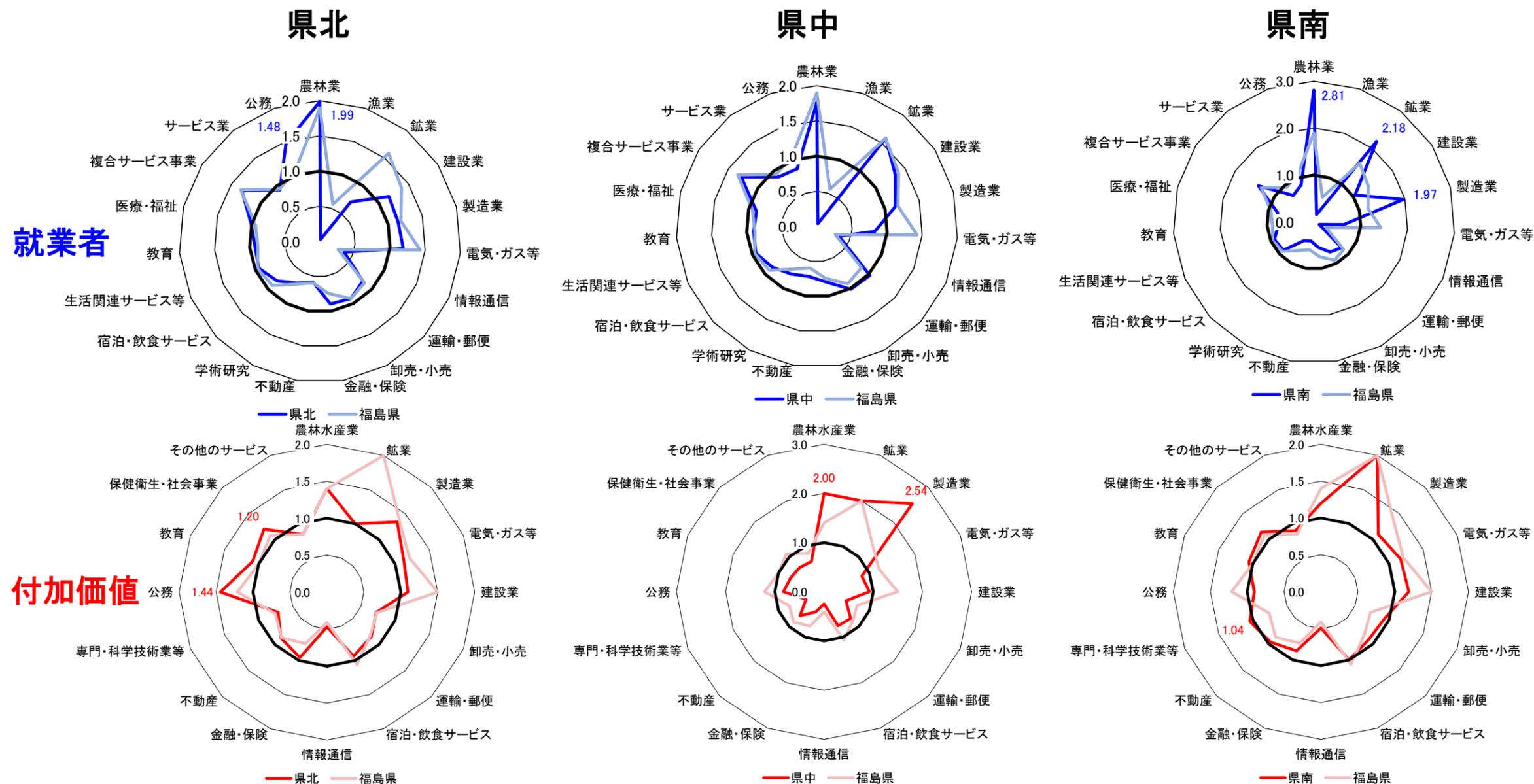


産業・就業

中通りは県内では相対的には産業のバランスが取れている

産業別特化係数(中通り)

■ 県中は製造業、農林水産業で高い付加価値を得ており、県南は鉱業の付加価値が高い



(出所) 就業者: 総務省「国勢調査」

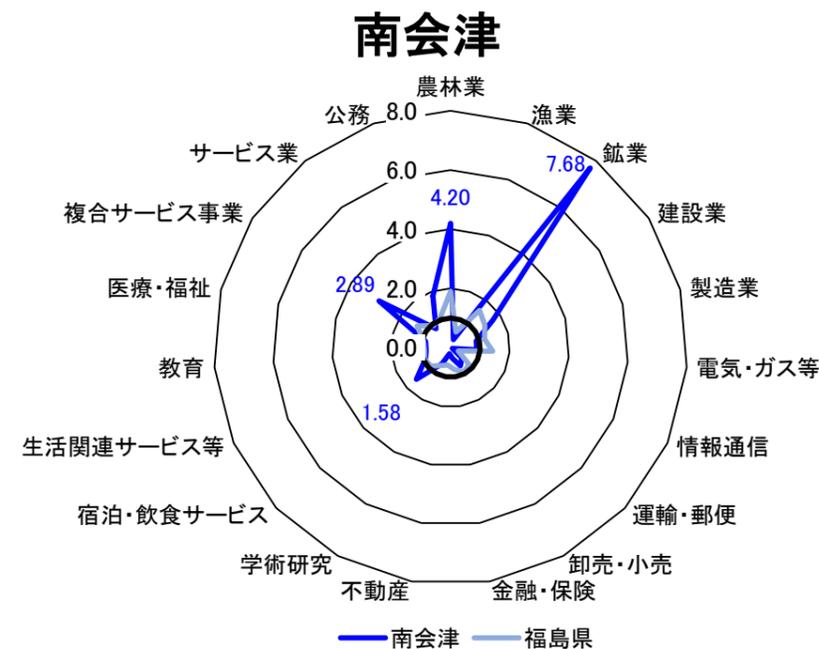
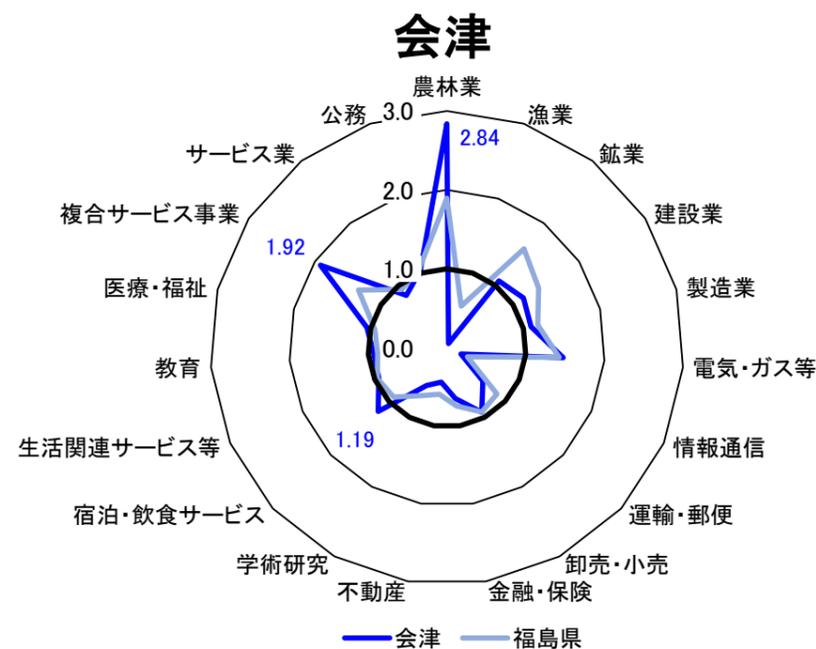
付加価値額: 福島県「市町村民経済計算」、内閣府「2022年度(令和4年度)国民経済計算年次推計」

会津は極端に特化係数が高い産業があり、特定の分野への集中度が高い

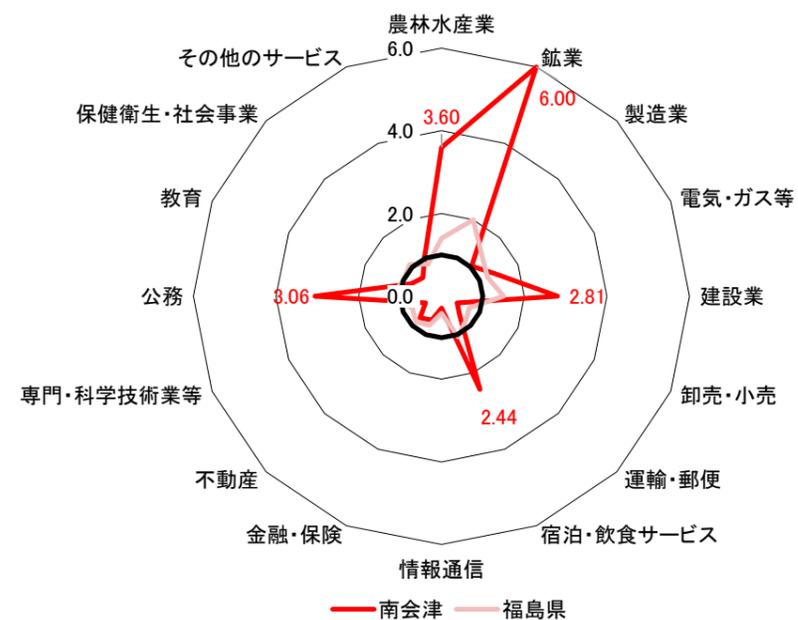
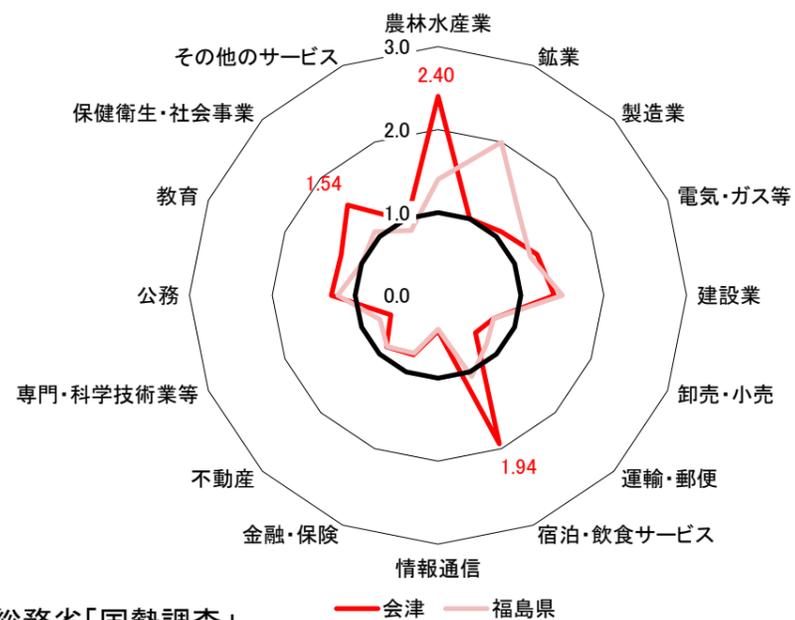
産業別特化係数(会津)

■ 会津は農林水産業の比率が高く、南会津は鉱業の比率が極端に高い。

就業者



付加価値



(出所) 就業者: 総務省「国勢調査」

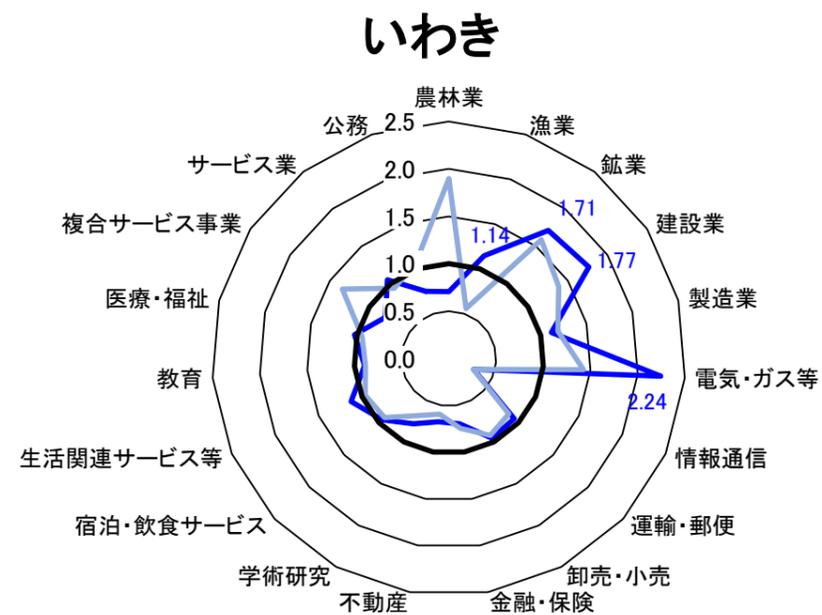
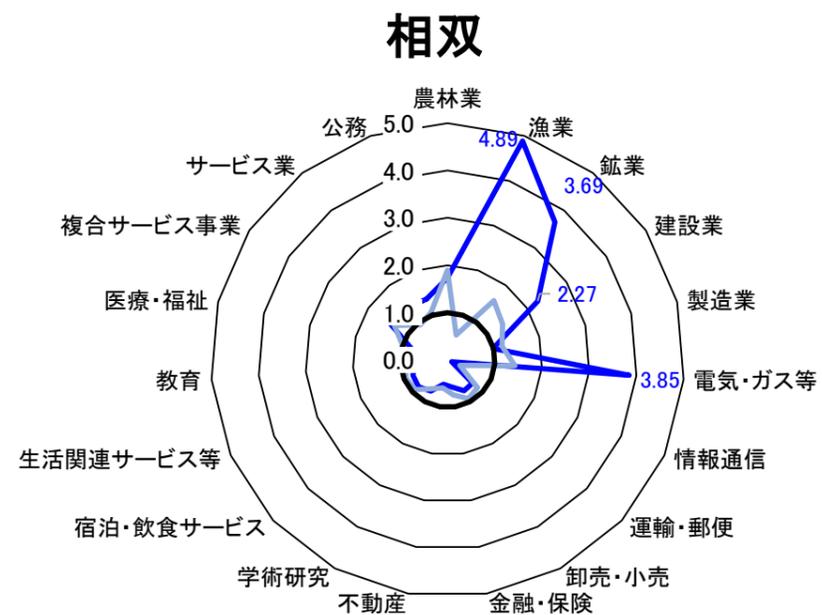
付加価値額: 福島県「市町村民経済計算」、内閣府「2022年度(令和4年度)国民経済計算年次推計」

浜通りも極端に特化係数が高い産業があり、特定の分野への集中度が高い

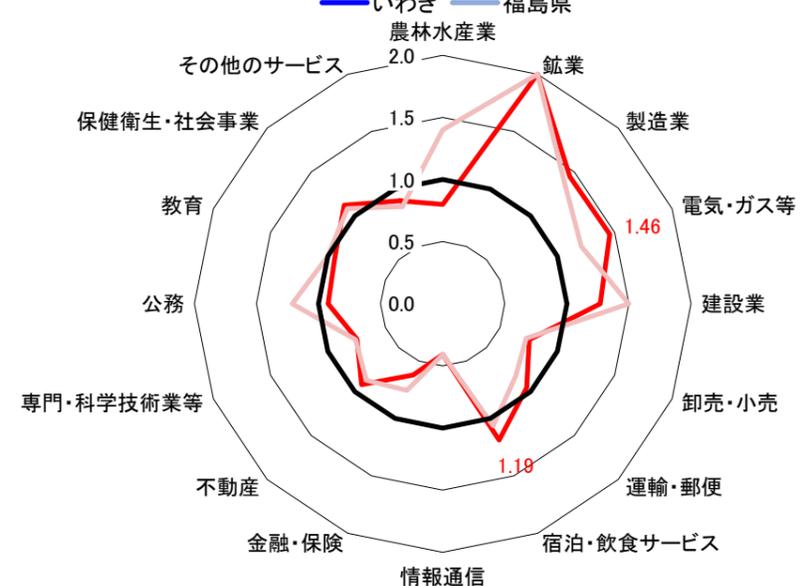
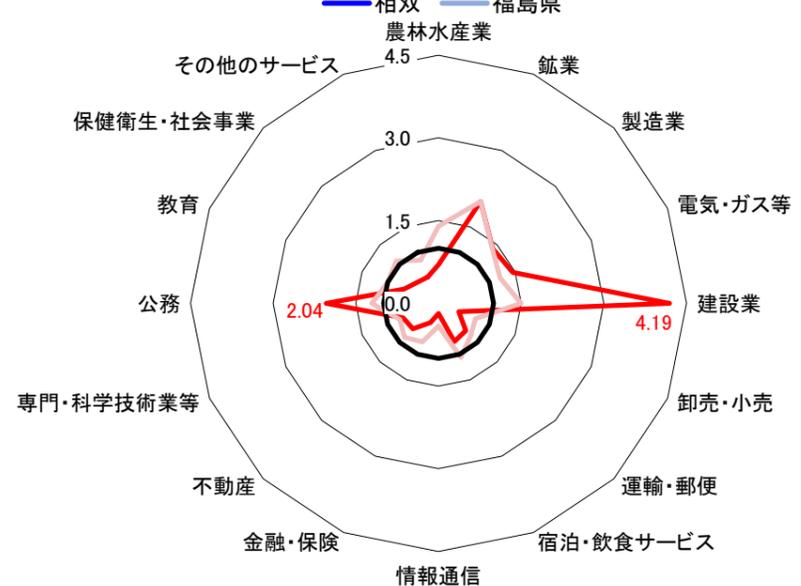
産業別特化係数(浜通り)

■ 会津は農林水産業の比率が高く、南会津は鉱業の比率が極端に高い。

就業者



付加価値



(出所) 就業者: 総務省「国勢調査」

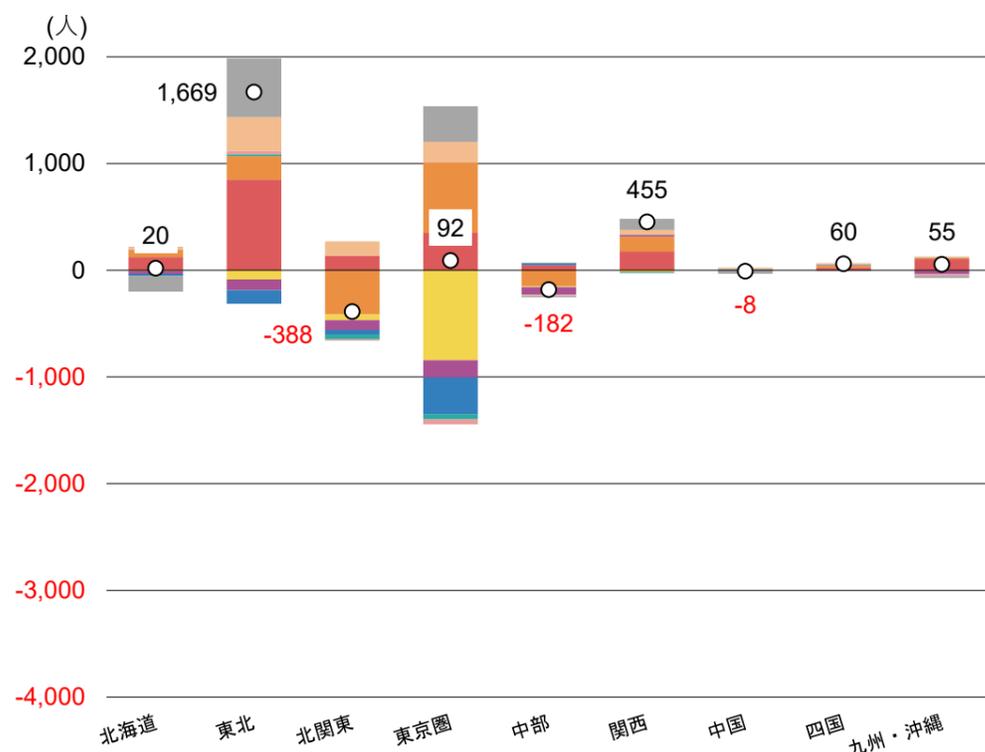
付加価値額: 福島県「市町村民経済計算」、内閣府「2022年度(令和4年度)国民経済計算年次推計」

就業時における女性の東京圏への流出が大きい(医療福祉やサービス業)

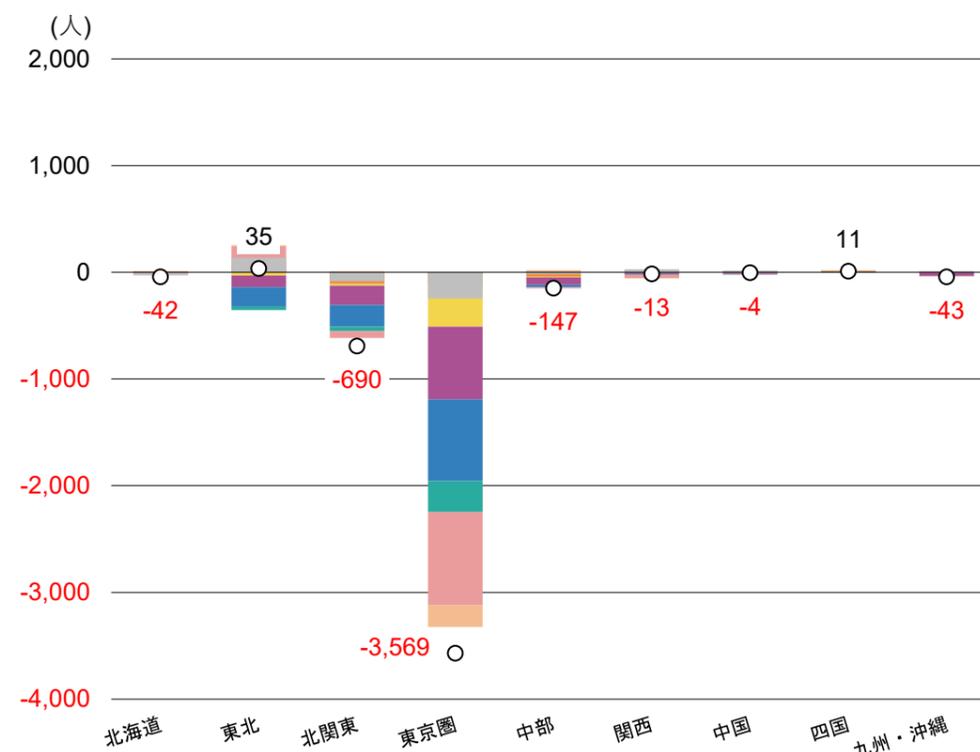
相手地域別・産業別人口動態

- 東京圏、東北、北関東との人口移動が大きい。
- 男性は東北、東京圏から建設業、製造業等で一定の人口流入がある。一方で、東京圏への情報通信業の転出超過が大きい。
- 女性は東京圏に対して宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉、卸売・小売業を中心として流出している。

図表 相手地域・産業別人口動態(2015→20)【男性】



図表 相手地域・産業別人口動態(2015→20)【女性】



■ 建設業
■ 卸売業, 小売業
■ 医療, 福祉
■ 製造業
■ 宿泊業, 飲食サービス業
■ サービス業 (他に分類されないもの)
■ 情報通信業
■ 生活関連サービス業, 娯楽業
■ その他
○ 計

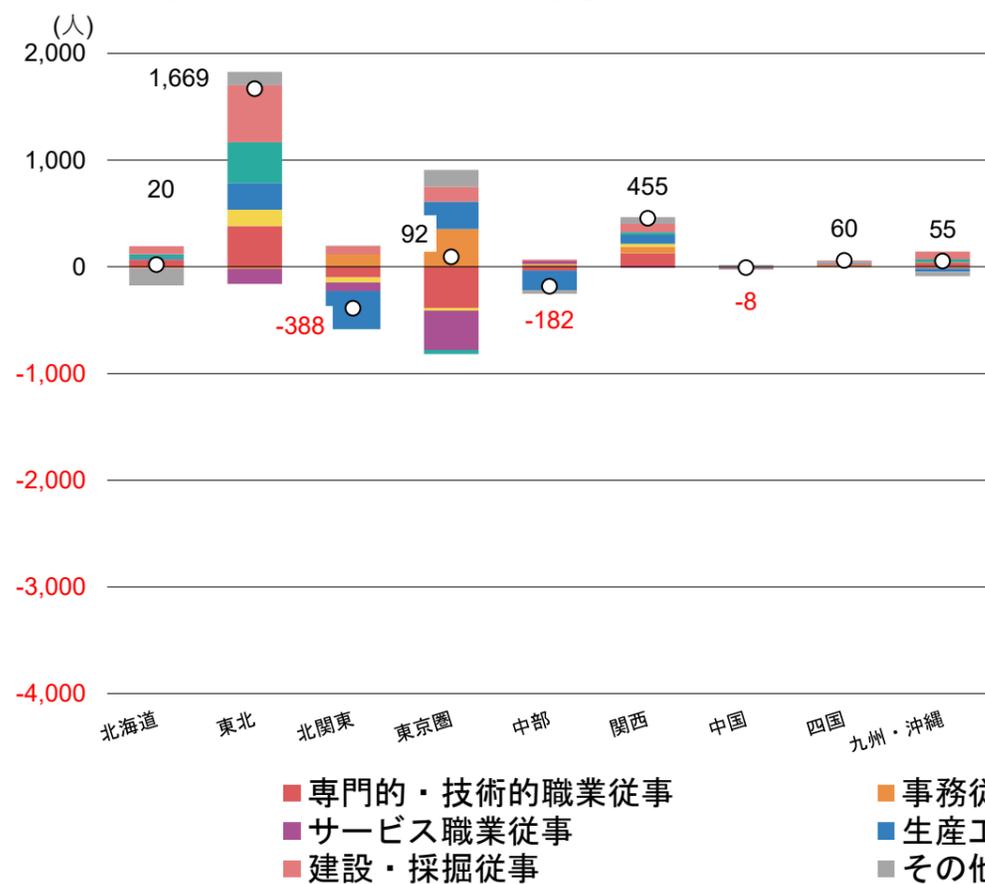
(出所)総務省「国勢調査」

男女とも、専門的・技術的職業従事者が東京圏へ流出(特に女性)

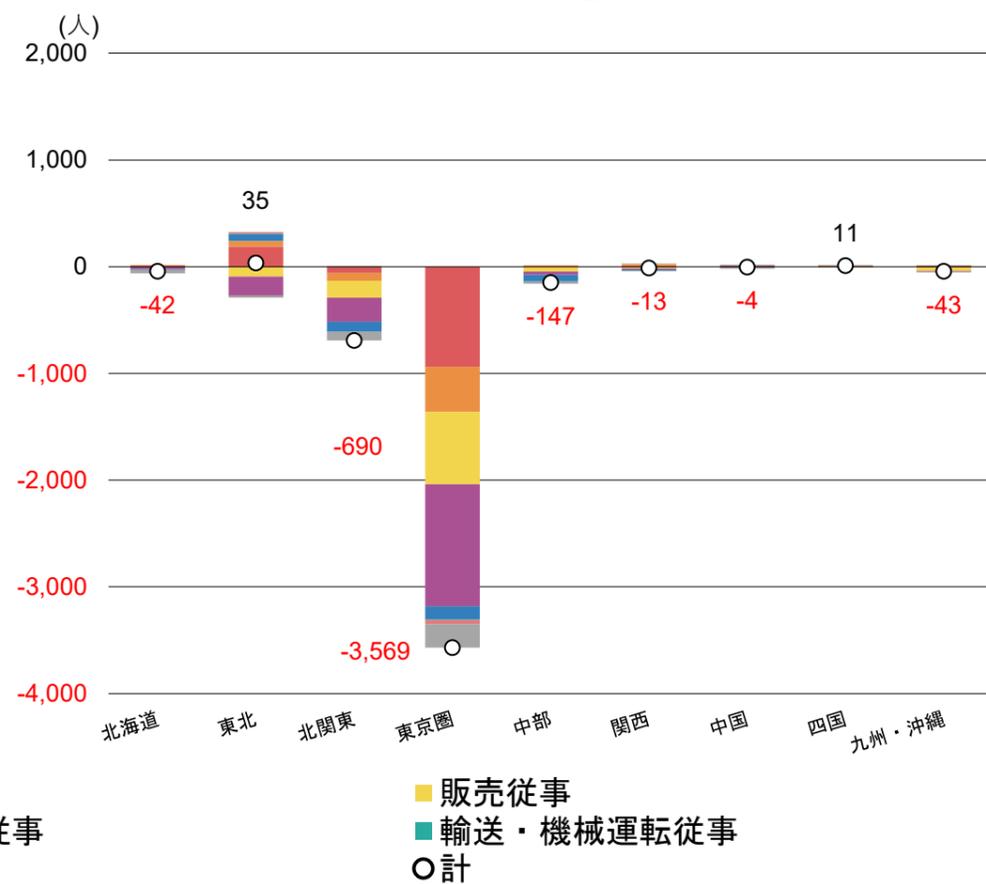
相手地域別・職業別人口動態

- 東北、北関東、東京圏との移動が大きい。
- 男性では専門的・技術的職業従事者、輸送・機械運転従事者、建設採掘従事者が東北から流入している。東京圏には専門的・技術的職業従事者、サービス職業従事者が流出している。
- 女性では東京圏への流出が極めて大きく、内訳ではサービス職業従事者、専門的・技術的職業従事者、販売従事者、事務従事者が大半を占めている。

図表 相手地域・職業別人口動態(2015→20)【男性】



図表 相手地域・職業別人口動態(2015→20)【女性】



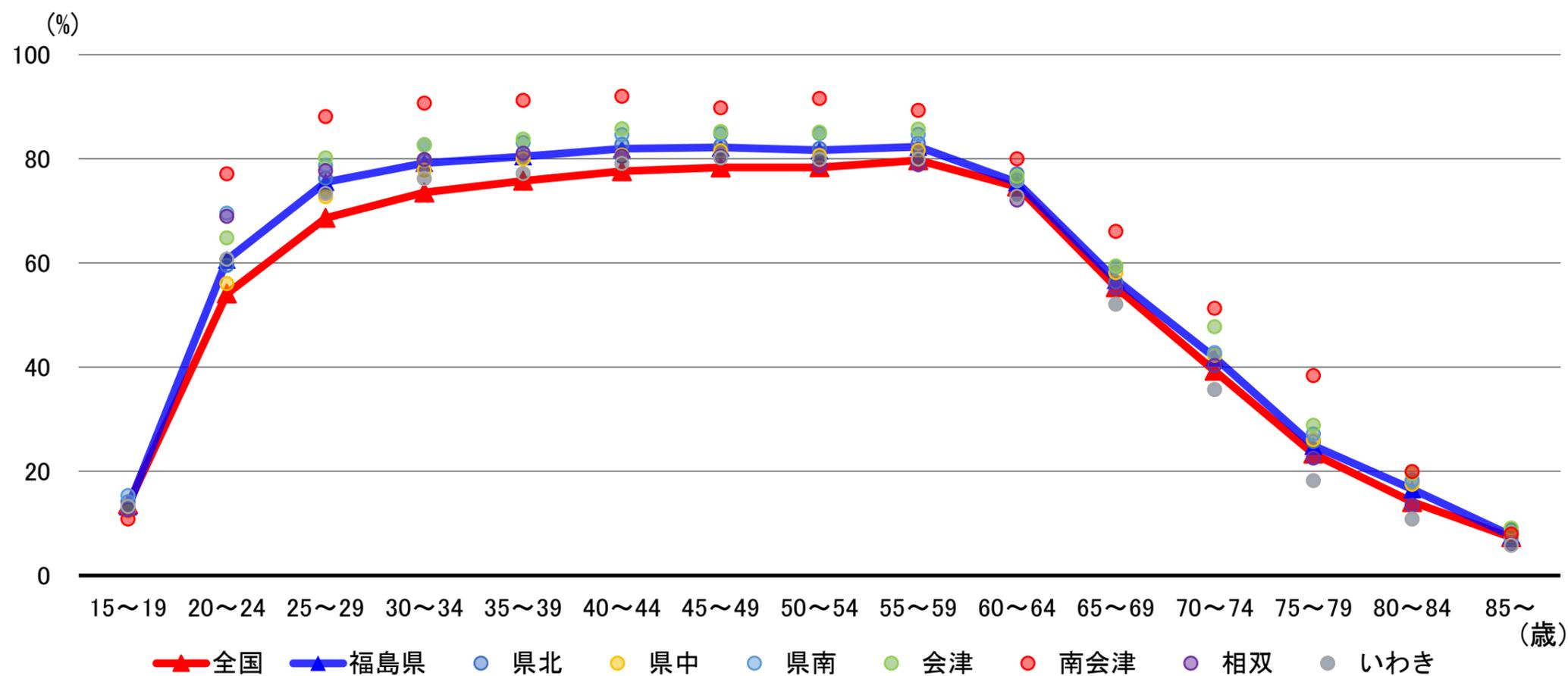
(出所)総務省「国勢調査」

15～19歳を除く全年齢階級において就業率が高い

年齢別就業率(男性)

- 福島県の男性就業率は、15～19歳を除く全年齢階級において全国平均よりも高くなっている。
- 地域別で見た場合でも、20代～50代にかけては、概ね全国平均を上回っている。

図表 就業率【男性】



(出所) 総務省「国勢調査」

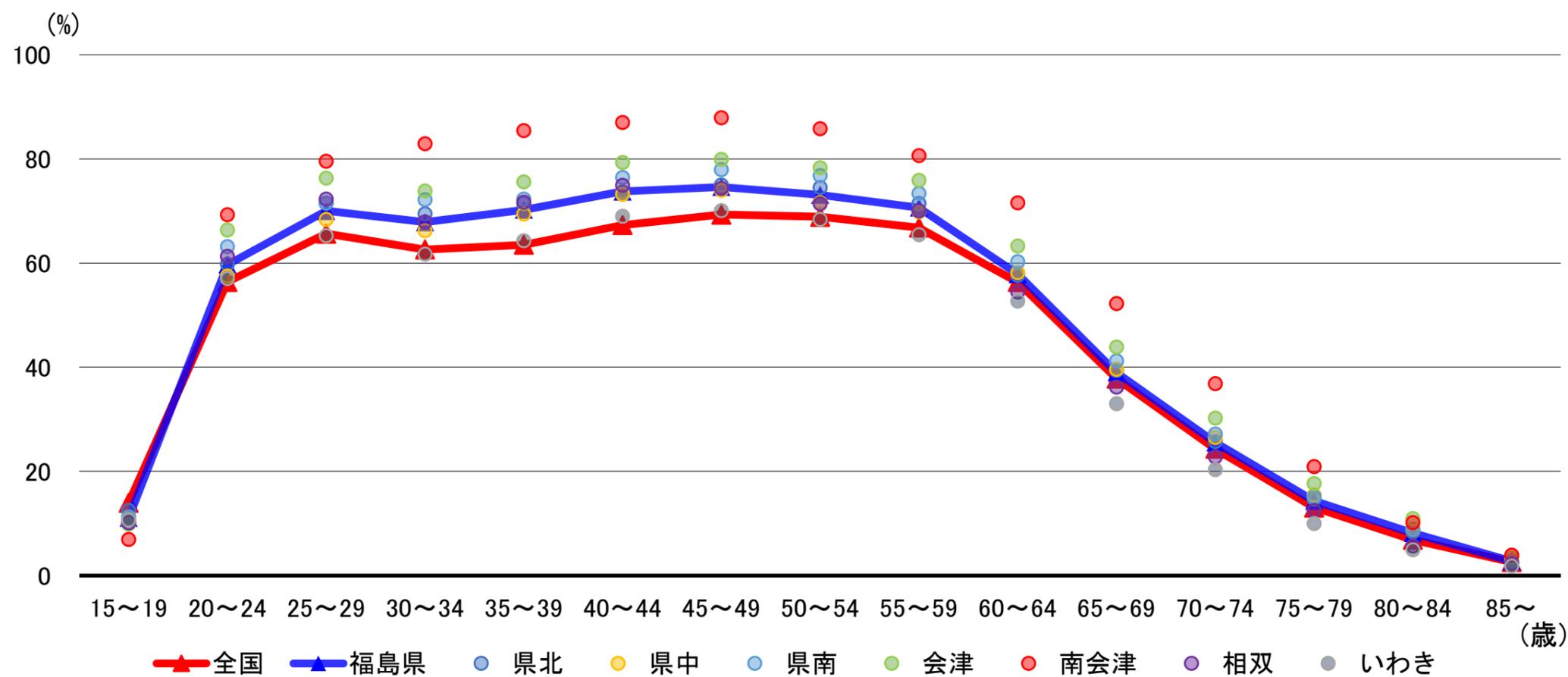
(注釈) 人口は年齢不詳按分後のデータを使用しているため、福島県人口ビジョンの就業率とは一致しない。

15～19歳を除く全年齢階級において就業率が高い

年齢別就業率(女性)

- 福島県の女性就業率は、15～19歳を除く全年齢階級において全国平均よりも高くなっている。
- 地域別では20代～50代にかけては、概ね全国平均を上回っている。

図表 就業率【女性】



(出所)総務省「国勢調査」

(注釈)人口は年齢不詳按分後のデータを使用しているため、福島県人口ビジョンの就業率とは一致しない。

高校・大学卒業後の進路

大学進学率が低い中、進学者数に対する県内大学入学定員の充足率も低い

大学等進学関係データ(大学進学率、地元進学率、地元出身者占有率、入学定員)

- 福島県は大学進学率が全国36位の51.0%であるが、大学進学者数に対する定員数が0.47しかない。
- また、地元進学率も全国38位の21.0%と低い水準となっている。

都道府県別大学等進学率

順位	都道府県名	割合 (%)
1	東京都	74.2
2	京都府	74.0
3	神奈川県	69.4
⋮	⋮	⋮
36	福島県	51.0
⋮	⋮	⋮
47	沖縄県	46.7

都道府県別地元進学率

順位	都道府県名	割合 (%)
1	愛知県	71.4
2	東京都	68.8
3	福岡県	65.9
⋮	⋮	⋮
38	福島県	21.0
⋮	⋮	⋮
47	鳥取県	15.1

都道府県別大学の地元出身者占有率

順位	都道府県名	割合 (%)
1	沖縄県	78.8
2	北海道	73.5
3	愛知県	64.4
⋮	⋮	⋮
19	福島県	47.4
⋮	⋮	⋮
47	滋賀県	19.8

18歳人口、大学進学者数に対する県内大学等入学定員(倍)

順位	都道府県名	大学進学者数に対する定員数	18歳人口に対する定員数
1	京都府	2.03	1.47
2	東京都	1.83	1.42
3	大阪府	1.11	0.67
⋮	⋮	⋮	⋮
42	福島県	0.47	0.21
⋮	⋮	⋮	⋮
47	三重県	0.37	0.19

(出所)大学等進学率、地元進学率、地元出身者占有率:文部科学省「学校基本調査」
 入学定員:文部科学省「各都道府県における高等教育の現状に関する調査研究」

大学等卒業者の就職内定状況

- 県内就職者の割合は、大学卒業で37.5%、高等専門学校卒業で26.9%と低く、短期大学卒業で70.2%、専修学校卒業で64.6%と高い

図表 県内大学等卒業者の就職内定状況

(単位：人)

区分	卒業者	就職希望者数		就職決定（内定）者数			
		県内	県外	県内	割合	県外	割合
計	5,142	2,097	2,244	2,024	48.1%	2,180	51.9%
大学	3,013	961	1,614	941	37.5%	1,567	62.5%
短期大学	606	372	159	362	70.2%	154	29.8%
高等専門学校	208	29	79	29	26.9%	79	73.1%
専修学校	1,315	735	392	692	64.6%	380	35.4%

(出所)福島労働局「令和7年3月新規大学等卒業者の就職内定状況」

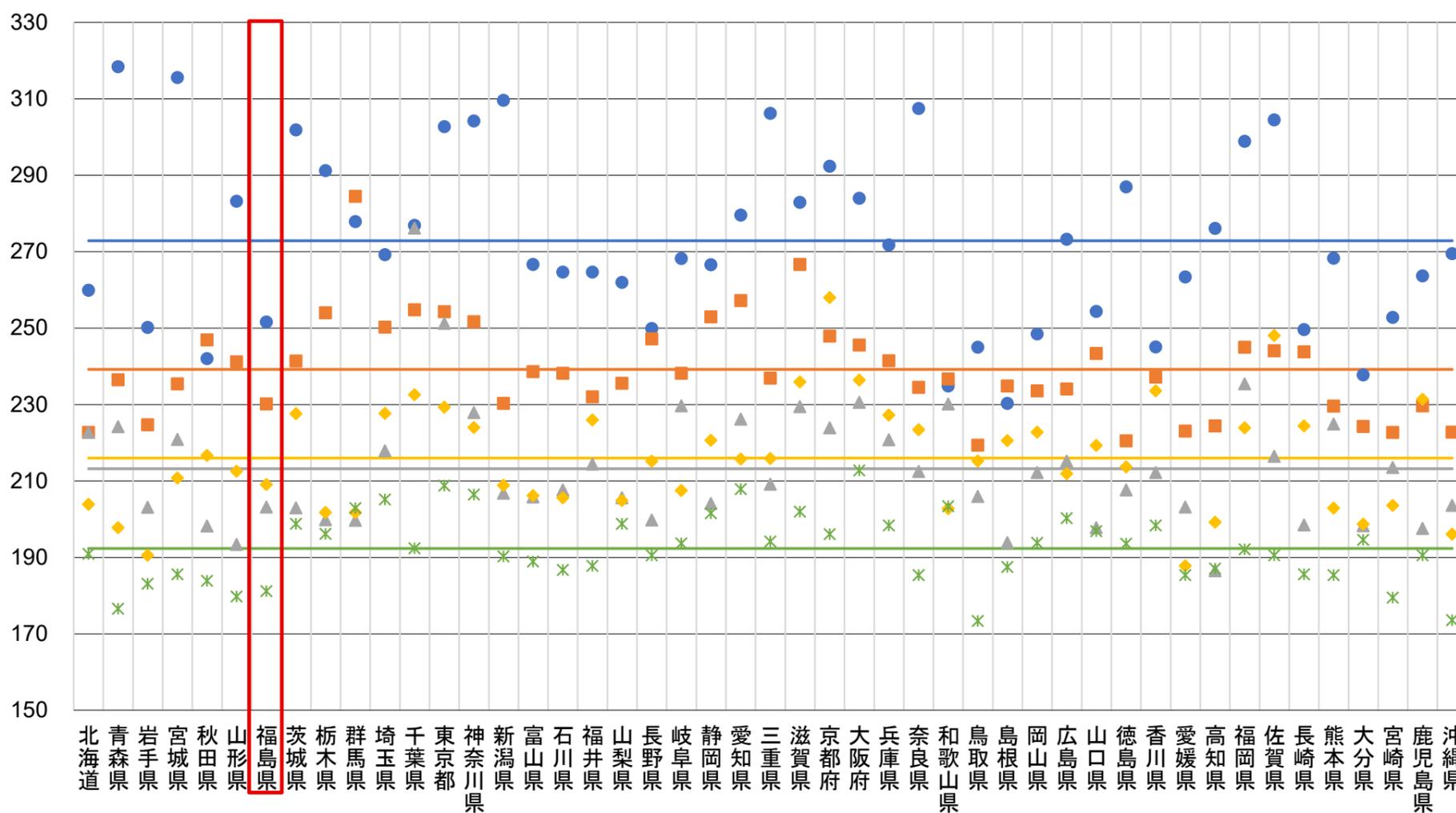
新卒者の給与が全学歴において全国平均より低く、特に院卒が低い。

新規学卒者の所定内給与額

- 福島県における新規学卒者の所定内給与額は、高卒から大学院卒まで、全学歴において全国平均を下回っているが、特に大学院卒が全国平均との乖離が大きい。

図表 都道府県別 新規学卒者の所定内給与額(2024年)

(千円)



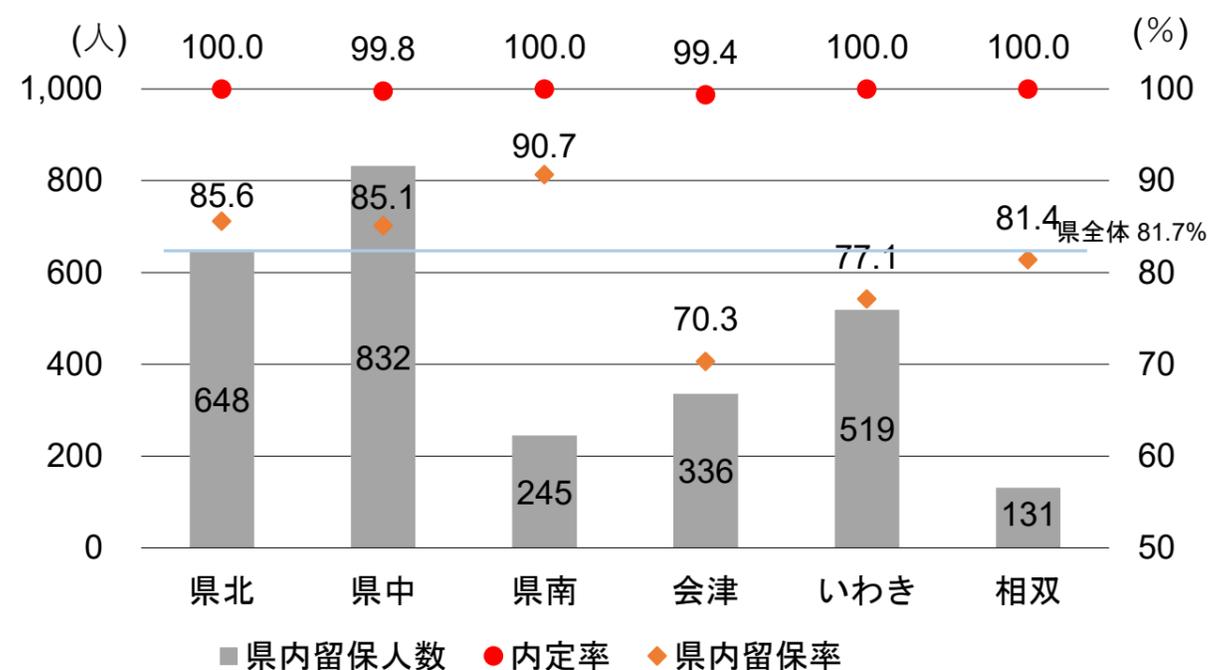
● 大学院 ■ 大学 ▲ 高専・短大 ◆ 専門学校 ✖ 高校
— 大学院平均 — 大学平均 — 高専・短大平均 — 専門学校平均 — 高校平均 (出所)厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

高卒就職者の8割が県内に就職。会津、いわきでやや低い。

新規高卒者の就職内定率・県内留保率

- 新規高卒者の県内就職(内定)率が最も高いのは県南地域の90.7%であり、多くに地域で8割を超えているが、いわきと会津で8割を切っており、最も低い会津地域では70.3%にとどまっている。

図表 7地域別 新規高卒者の就職内定率・県内留保率・県内留保人数(2025年3月31日時点)



(注1) 県内留保人数は各地区内定者数に県内留保率をかけて算出

(注2) 出所の統計データが6地域区分となっている

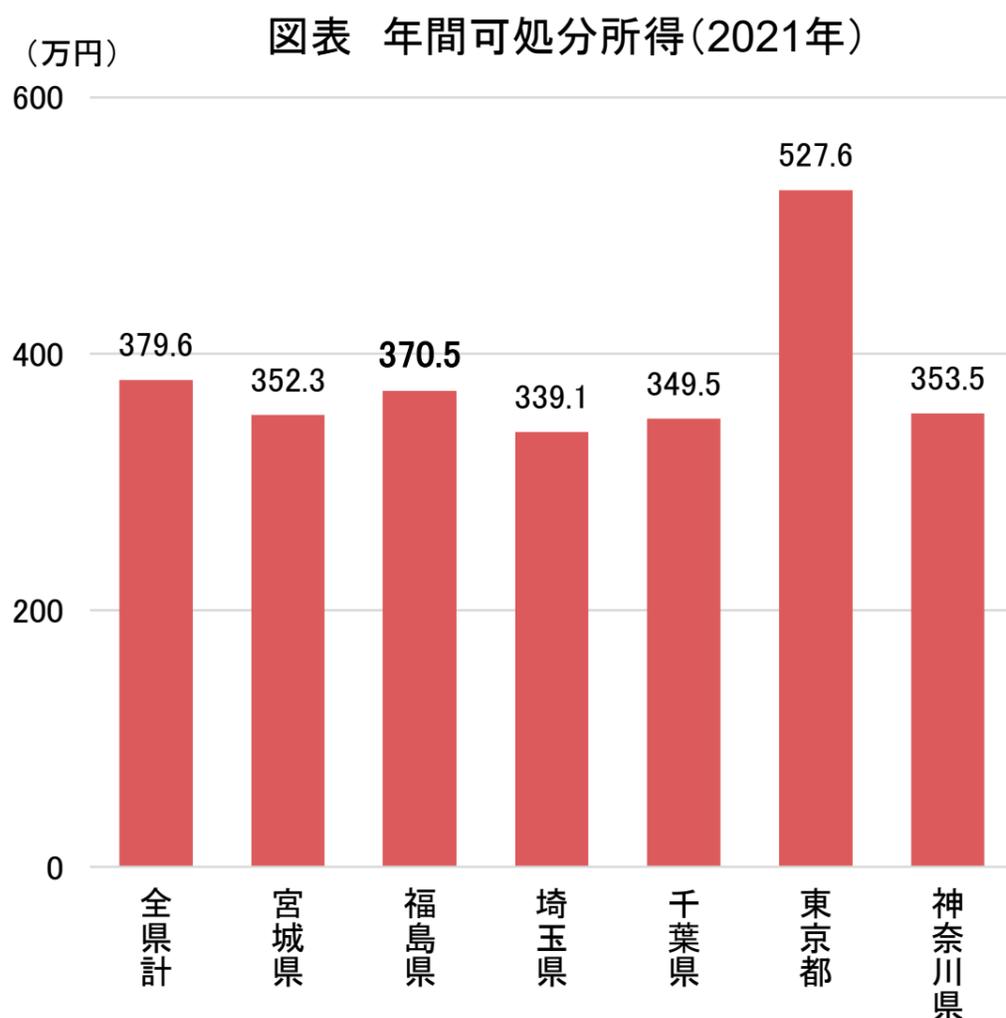
(出所) 福島県雇用労政課「新規高等学校等卒業者の就職(内定)状況」

生活・男女共同参画等

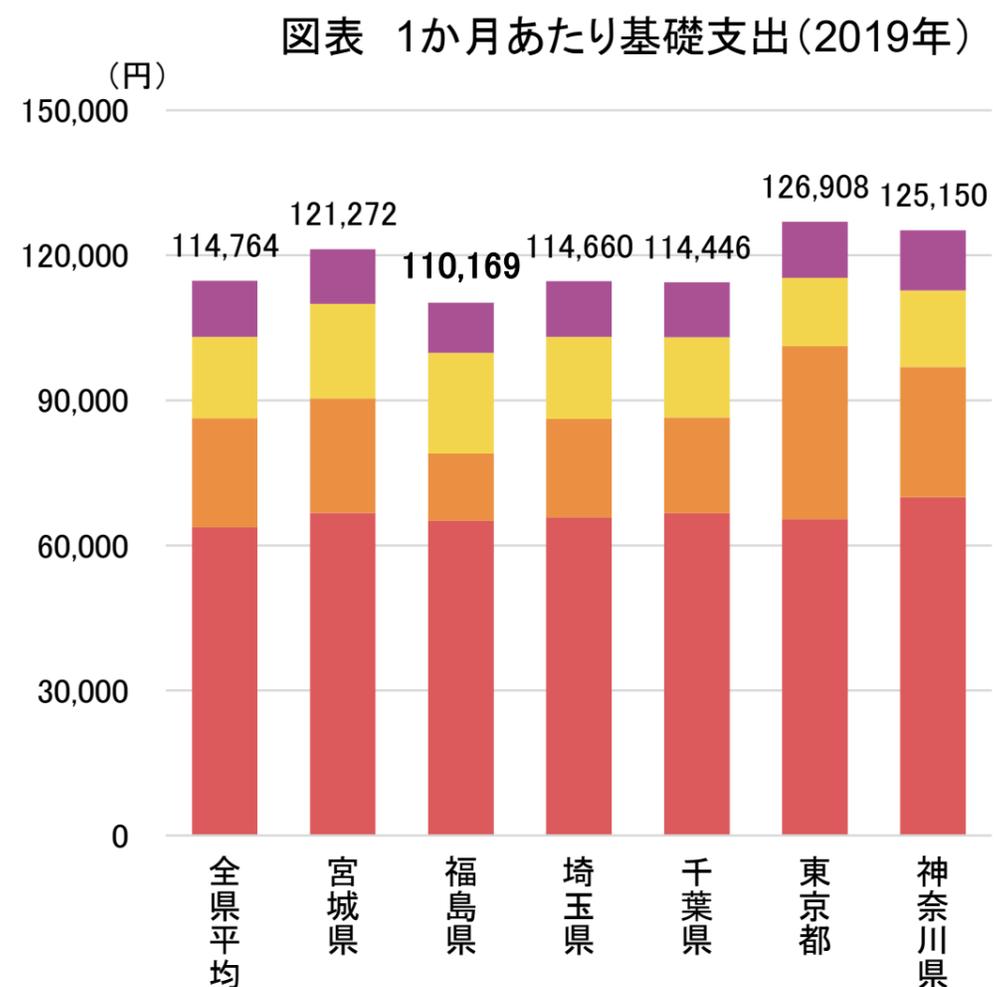
主要転出先に比べ、可処分所得は高く、基礎支出は低い

可処分所得・基礎支出

- 福島県の可処分所得は370.5万円で、宮城県や東京圏(東京都を除く)よりは高い水準である。
- 福島県の1か月あたり基礎支出額は110,169円となっており、宮城県や東京圏よりも低い水準である。
- 可処分所得が多く、基礎支出が少ないため、相対的には生活に金銭的なゆとりがあると推察される。



(出所)内閣府「県民経済計算」



■ 食料 ■ 住居 ■ 光熱・水道 ■ 保健医療

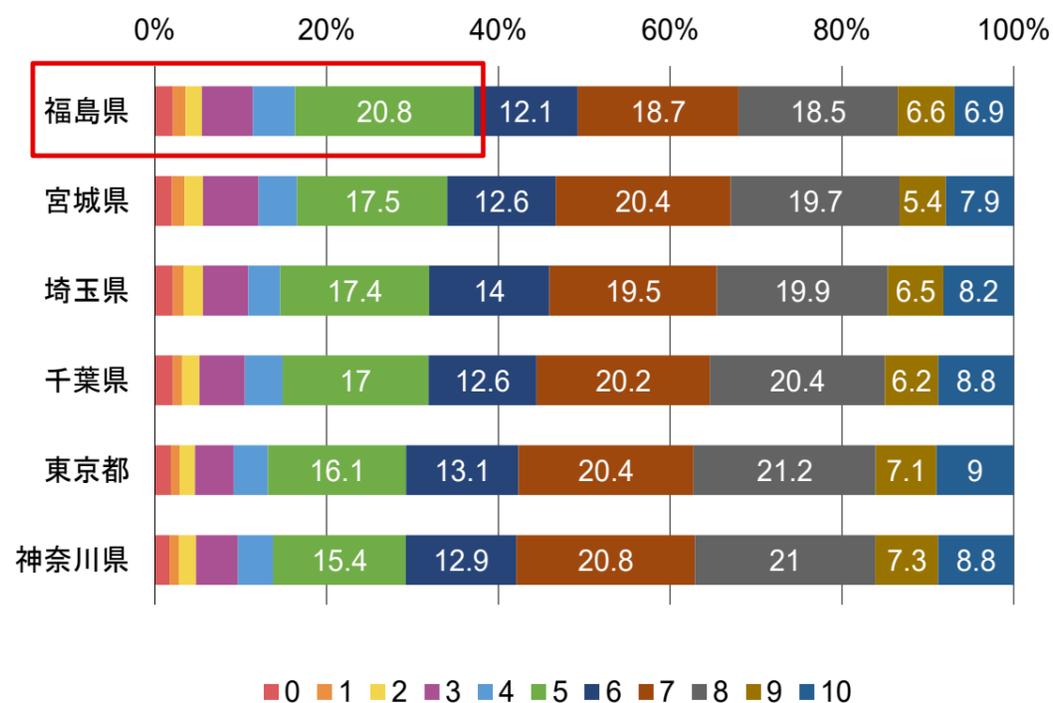
(出所)総務省「全国家計構造調査」

幸福度・生活満足度とも、流出先に比べてやや低い

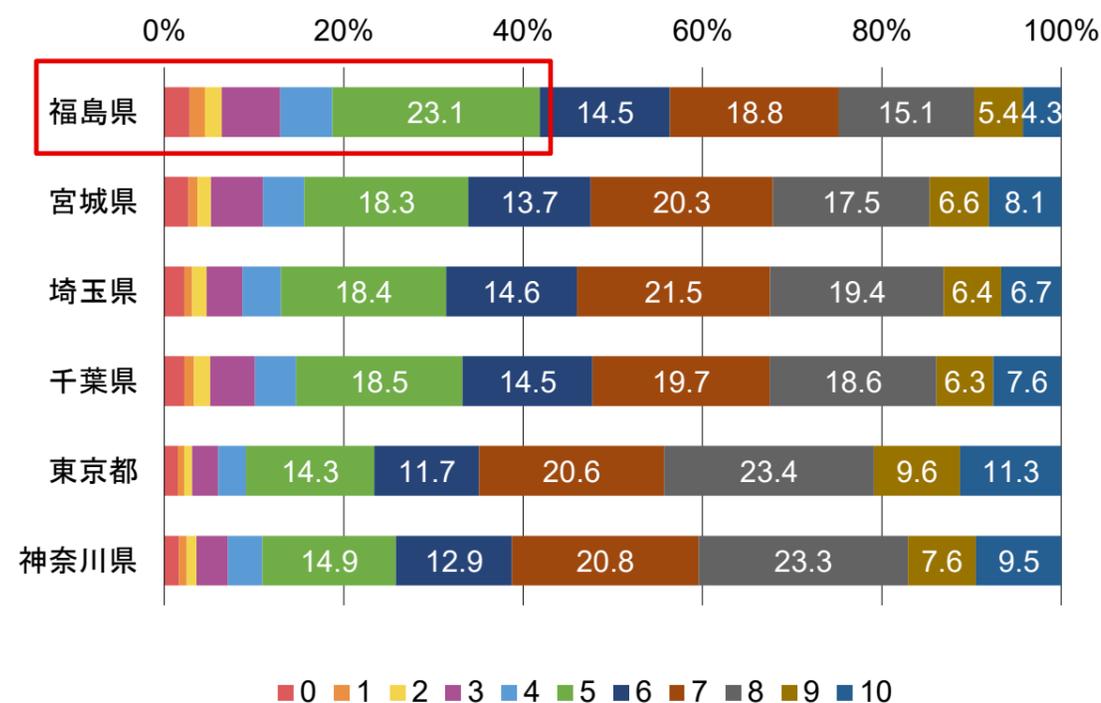
地域幸福度(Well-Being)指標

- 幸福度、生活満足度を11段階で表したとき、0～5と低い評価の回答した人の割合が、他の地域よりもやや高い。

図表 都道府県別 幸福度回答者割合(2024年)



図表 都道府県別 生活満足度回答者割合(2024年)



※幸福度、生活満足度は10に近いほど高く、0に近いほど低い

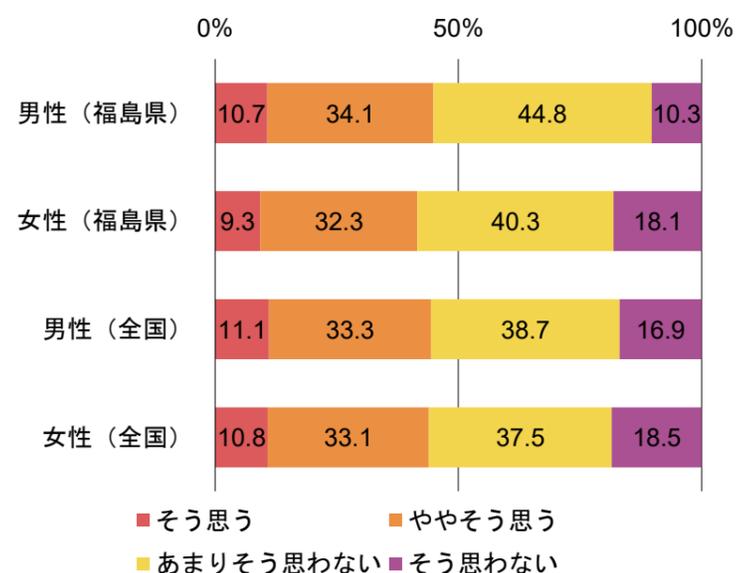
(出所)デジタル庁「地域幸福度(Well-Being)指標」

女性活躍への意識は全国と大差ないが、地域の活性化に対する評価がやや低い

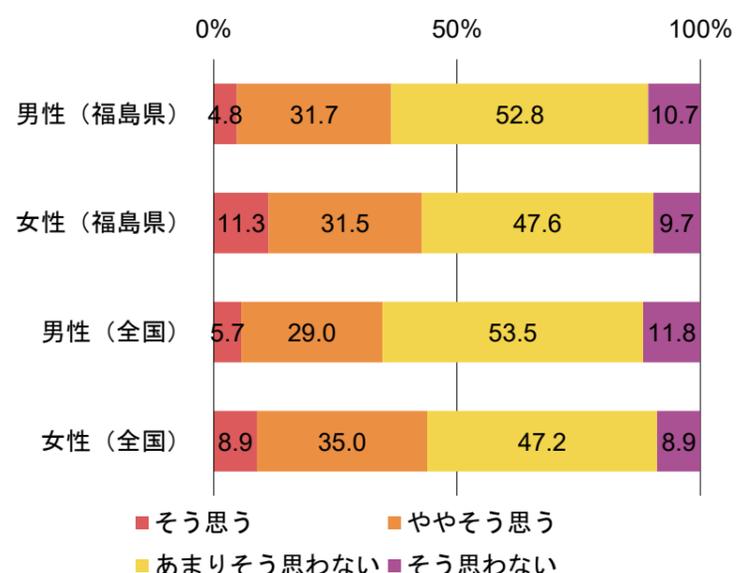
女性活躍に対する意識調査

- 女性の活躍に関する意識調査では、福島県は全国の傾向とあまり変わらない
- 「女性の活躍が進めば、地域の経済社会が今よりも活性化する」について、「そう思う」「ややそう思う」と答えた福島県の女性は、全国と比べて約8%pt少ない

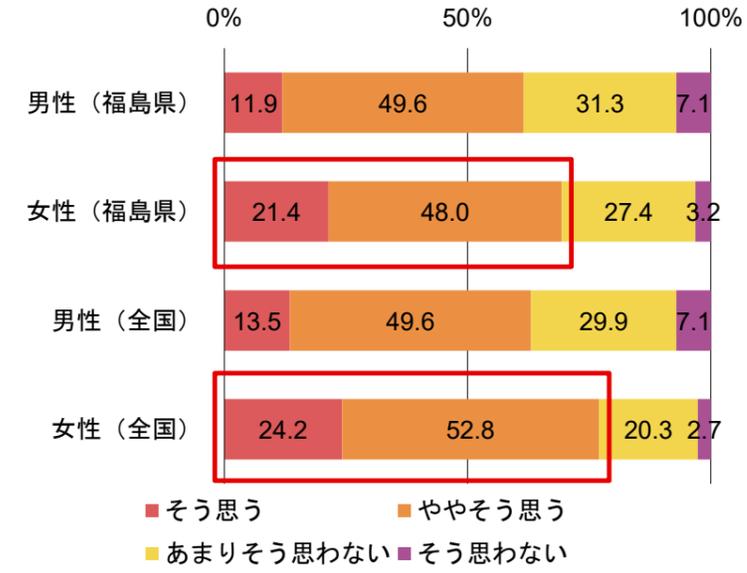
図表 自分の家庭の理想は、「夫が外で働き、妻が家を守る」ことだ



図表 子どもがいるかいないにかかわらず、女性が外で働くのは当然だ



図表 女性の活躍が進めば、地域の経済社会が今よりも活性化する



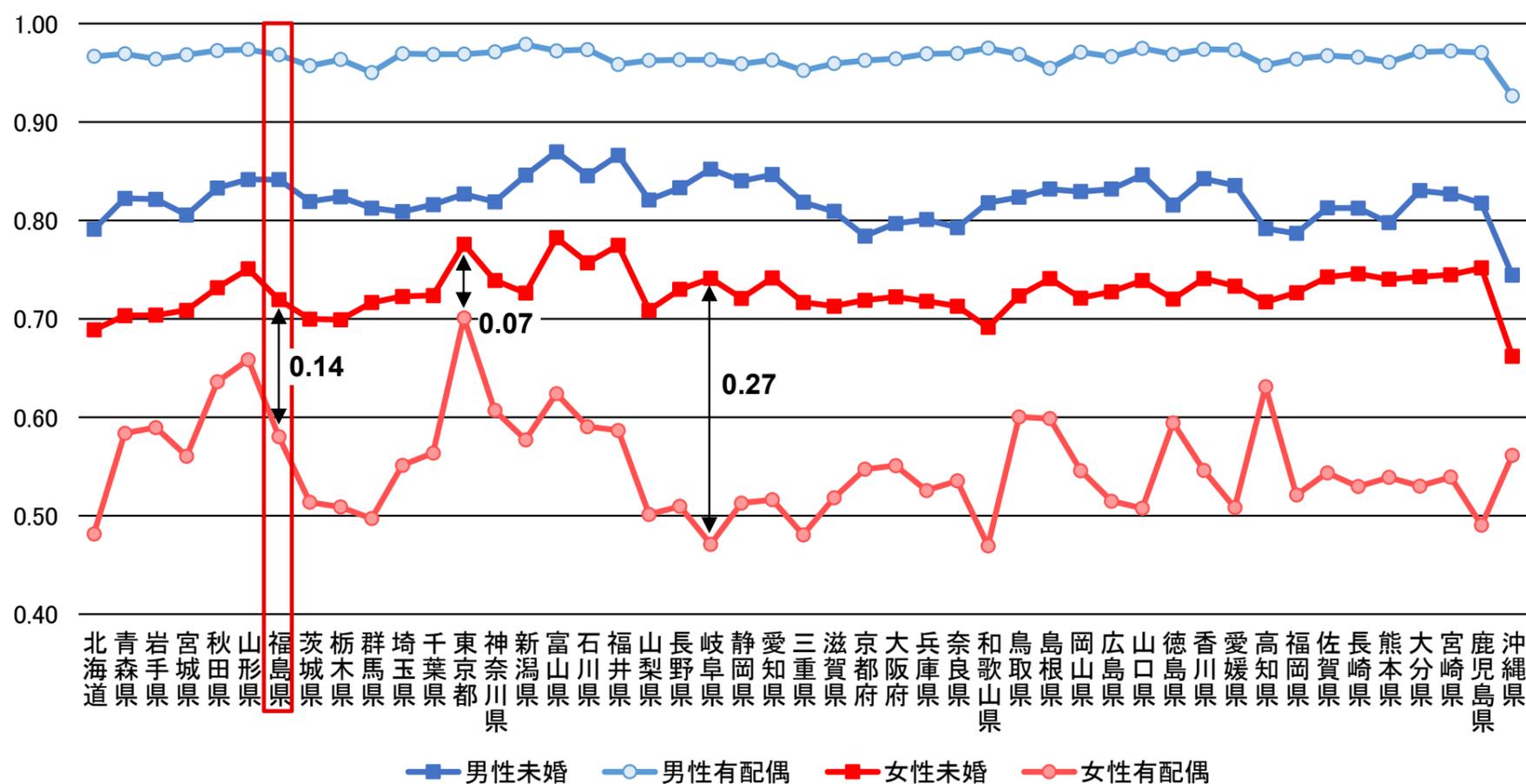
(出所) 男女共同参画局「地域における女性の活躍に関する意識調査」2015年6月

女性の未婚／有配偶による正規雇用割合の差は平均よりは小さい

都道府県・男女・配偶関係別正規雇用割合

- 全国的に、雇用者に占める正規雇用者の割合は、男性では有配偶者の方が高く、女性では未婚者の方が高い。
- 女性の未婚／有配偶による正規雇用割合の差は東京都で0.07と最も小さく、岐阜県で0.27と最も大きい。福島県は0.14と平均よりやや小さく、北関東の3県と比べても小さい。

図表 性別配偶関係別 正規雇用割合(20～39歳)2020年



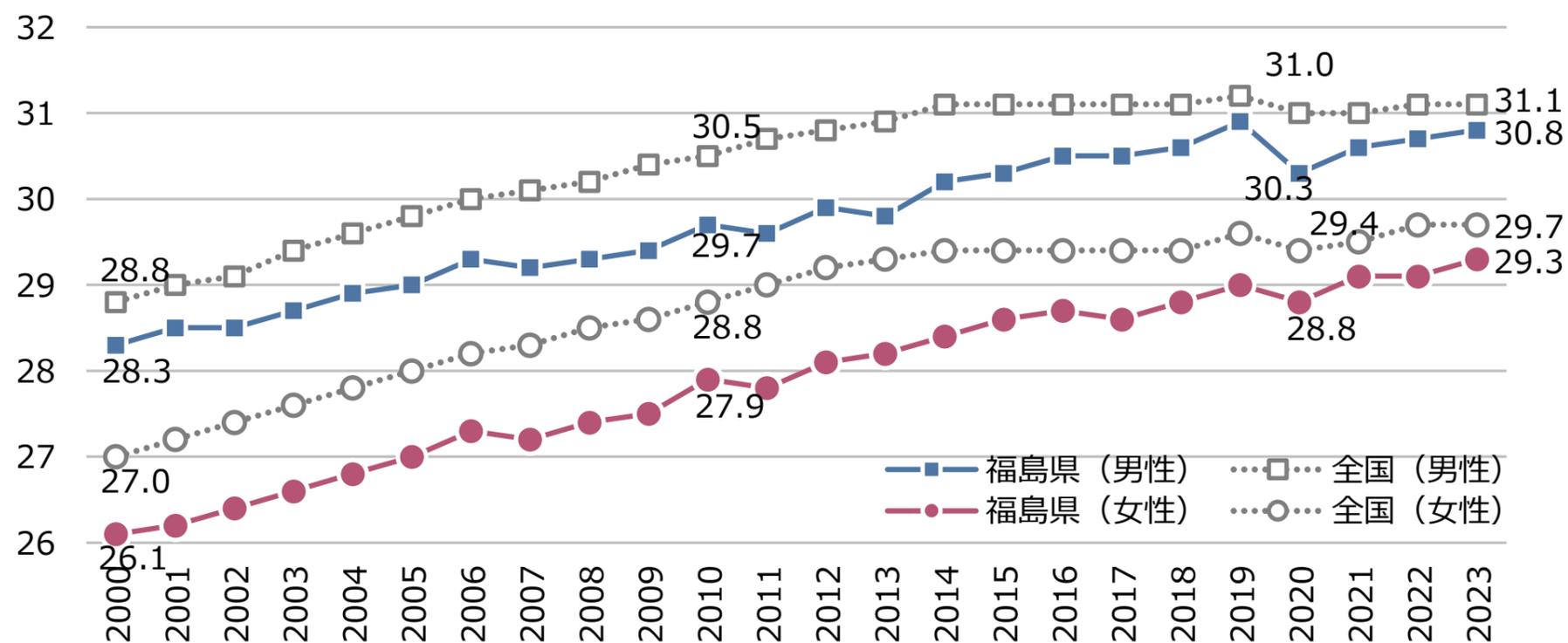
(出所)総務省「国勢調査」

平均初婚年齢は上昇傾向で、全国との差はほとんどない

平均初婚年齢の推移

- 福島県における平均初婚年齢は上昇傾向にある。男性、女性ともに全国よりも低いものの、格差は縮小しており、その差はわずかとなっている。

図表 平均初婚年齢の推移



(出所)厚生労働省「人口動態統計」(福島県人口ビジョン)

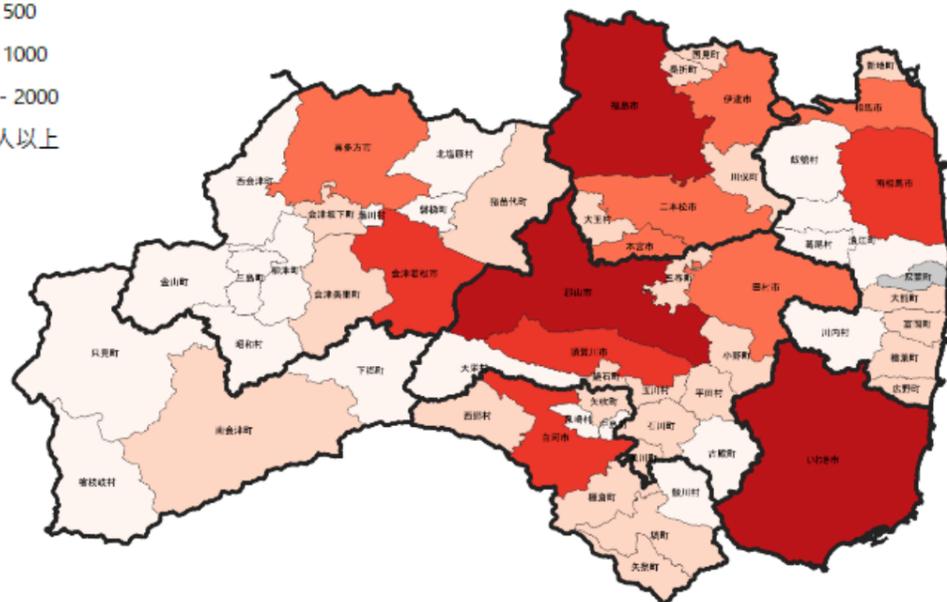
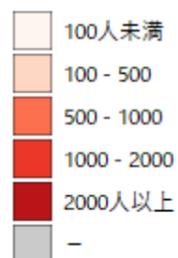
県内のほとんどの地域で、未婚男性が多く、未婚女性が少ない

7地域別男女別未婚者数の差、未婚率の比

- 未婚者数の男女差は人口の多い都市部で大きくなっているが、未婚女性者数に対する男性の人数は、相双地域で特に高い傾向にあるほか、県南ではすべての市町村で1.5以上になるなど、未婚男性に対して未婚女性が少ない地域が多くなっている。

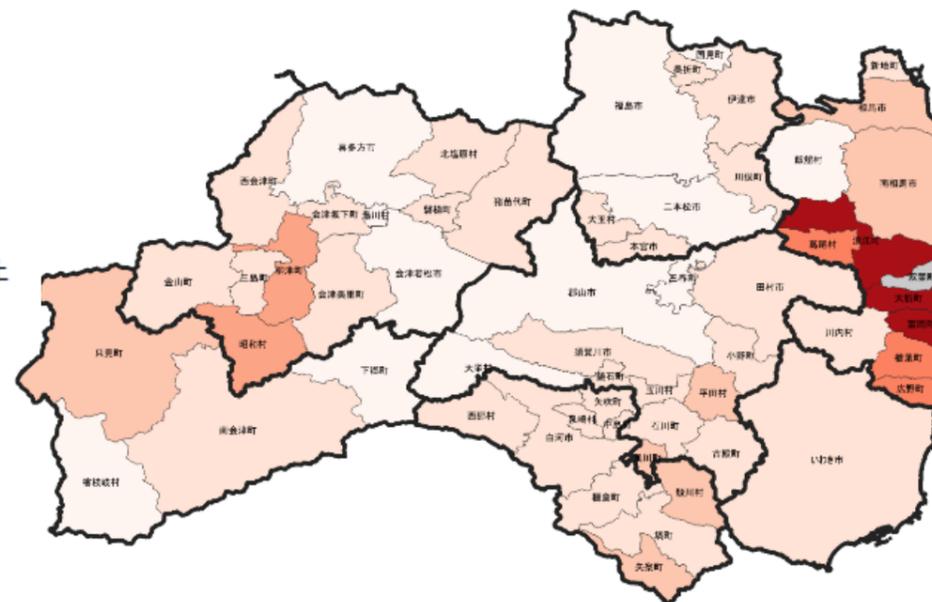
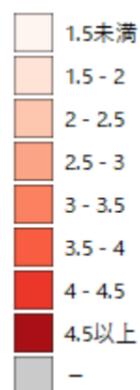
図表 男性未婚者数－女性未婚者数(2020年)

25～39歳未婚者数差



図表 未婚男女比(女性未婚者数=1)(2020年)

25～39歳未婚男女比



(出所)総務省「国勢調査」

【参考】人流データ分析

(1) 調査概要

① 業務目的：UIターンにおけるプロモーション展開先の検討

- 人流データを用いて、UIターン施策のターゲット想定層（首都圏及び宮城県在住者、若年層／等）が県内において多く来訪している場所、季節、時間帯等を分析し、次年度以降に、プロモーション活動を展開する上で効果的な場所・タイミングを検討する。

② 分析条件

- 分析は、人流ツール「Location AI Platform[®]」を用いて実施している。分析条件は下表の通りである。

分析条件	
分析期間	2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日） ※三春滝桜など、季節により繁閑が大きく異なる施設については、2024年度のうち一部期間での分析も実施
分析元データ	GPSデータを元に全体推計された国内在住者の来訪者数等（クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」に収録）
分析対象施設	分析対象施設として選定した20施設（後述）
分析対象者	当該人流ツールの機能により、「全来訪者」を対象とした分析項目、「観光客」を対象とした分析項目があり、本分析における「全来訪者」「観光客」の定義は下記の通りである。
全来訪者	分析対象施設に5分以上※1滞在した者 *通過者を除外するため
観光客	分析対象施設に5分以上滞在し、かつ過去30日間の来訪が無い者※2

※1 通過者を除外するため、5分未満の滞在者は除外して集計している。

※2 地点データでの分析の都合上、「過去30日間の来訪が無い者」を観光客とみなしている。よって、本分析の「観光客」には、観光・レジャー目的の来訪者の他にも、ビジネス目的、親族・知人訪問などの来訪者が含まれる場合がある。

注釈1) 本分析においては、クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」に収録されているGPSデータを用いて分析対象者数を算出しているため、各種観光統計と数値が連動するものではない。

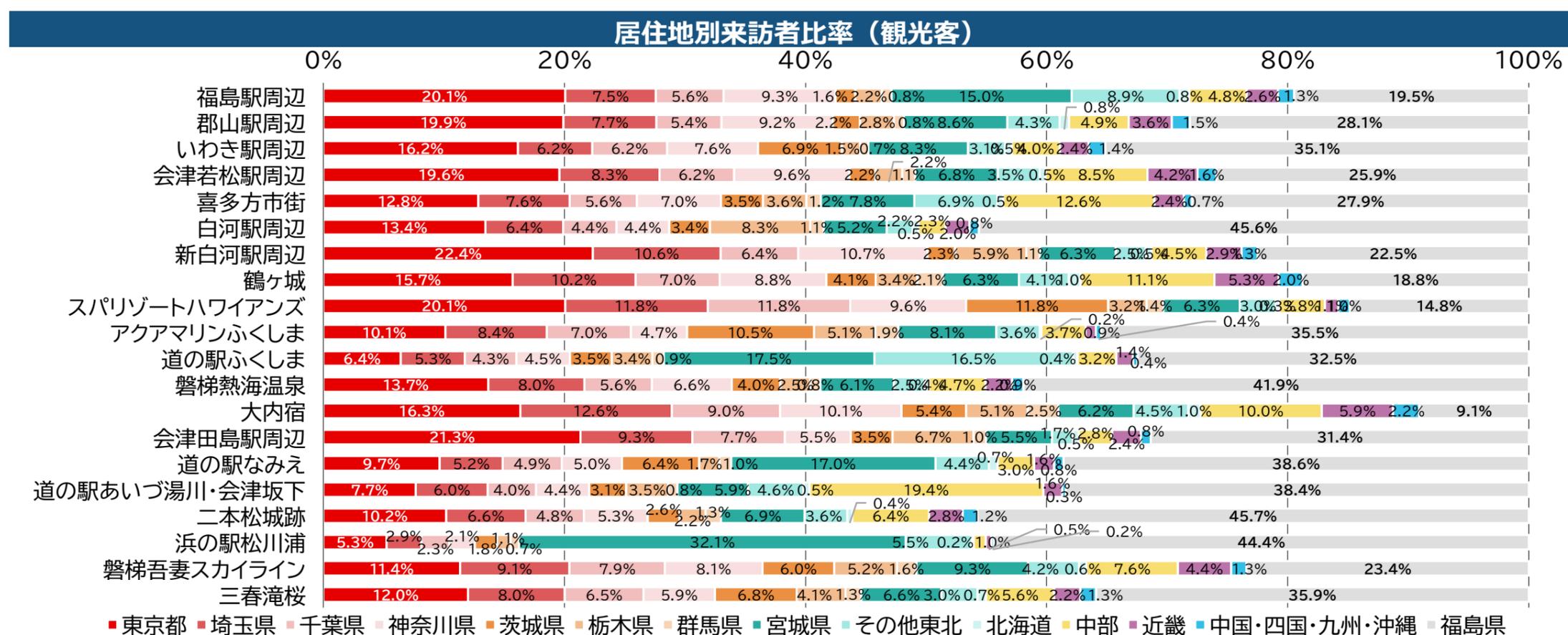
注釈2) GPSデータの使用許諾の都合から、18歳未満のデータは分析元データに含まれていない。

注釈3) 分析対象者数は延べ数である。

(2) 居住地別来訪者比率

- 観光客における居住地別来訪者比率について、東京都の比率をみると、新白河駅周辺（22.4%）、会津田島駅周辺（21.3%）、福島駅周辺（20.1%）、スパリゾートハワイアンズ（20.1%）、郡山駅周辺（19.9%）の順で高い。
- 関東（東京都以外）の比率をみると、スパリゾートハワイアンズ（49.6%*）、大内宿（44.6%）、磐梯吾妻スカイライン（37.9%）、アクアマリンふくしま（37.6%）、新白河駅周辺（37.1%）、鶴ヶ城（35.7%）の順で高い。
- うち、スパリゾートハワイアンズ（11.8%）、アクアマリンふくしま（10.5%）は茨城県の比率が10%を超えている。
- 宮城県からの比率では、浜の駅松川浦（32.1%）、道の駅ふくしま（17.5%）、道の駅なみえ（17.0%）の順となる。

*グラフ中のデータラベルは小数点第2位以下を四捨五入しているため、グラフ中のデータラベルの合計値と文章中の値（実際の合計値）が一致しない場合がある。



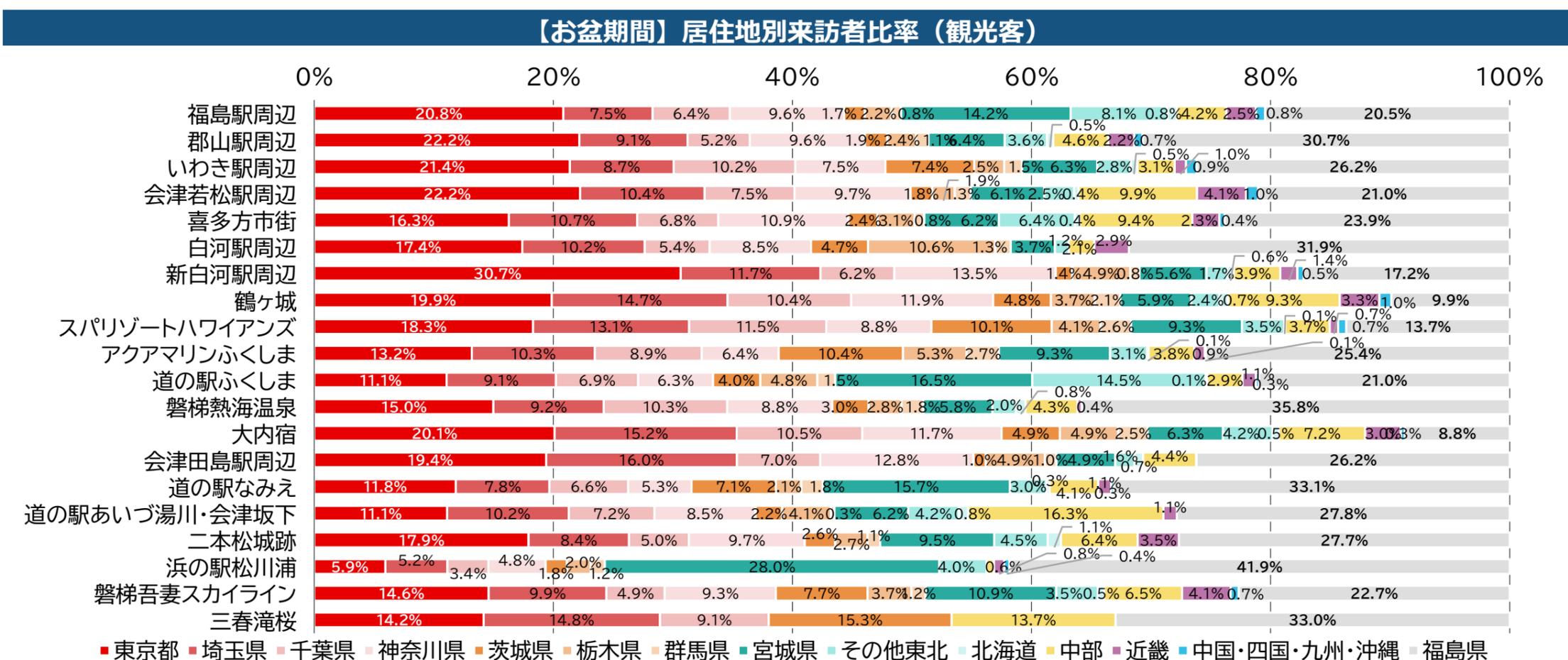
資料) クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」より作成

(2)【お盆期間】居住地別来訪者比率

- お盆期間※¹における東京都居住者の比率を、全期間における比率と比較すると、福島駅周辺（全期間と比べて0.8%pts※²上昇）、郡山駅周辺（同2.2%pts）、いわき駅周辺（同5.2%pts）、会津若松駅周辺（同3.4%pts）、喜多方市街（同3.4%pts）、白河駅周辺（同4.0%pts）、新白河駅周辺（同8.3%pts）、鶴ヶ城（同4.2%pts）など、複数のスポットにおいて、東京都居住者の比率が高まっている。

※1 本分析では2024年8月10日（土）～18日（日）をお盆期間と定義した。

※2 グラフ中のデータラベルは小数点第2位以下を四捨五入しているため、グラフ中のデータラベルの差分と文章中の値（実際の差分）が一致しない場合がある。



資料) クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」より作成

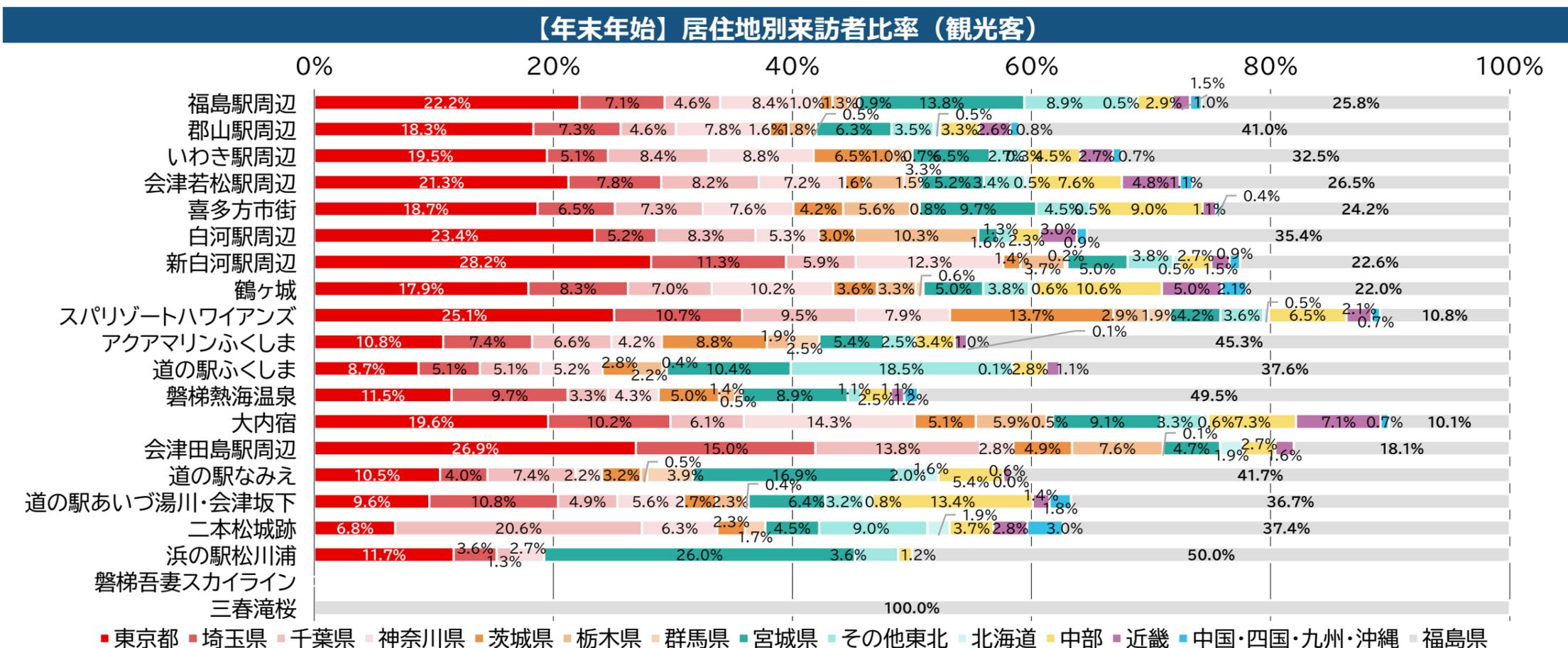
(2)【年末年始】居住地別来訪者比率

- 年末年始※¹における東京都居住者の比率を、全期間における比率と比較すると、福島駅周辺（全期間と比べて2.1%pts※²上昇）、いわき駅周辺（同3.3%pts）、会津若松駅周辺（同1.7%pts）、喜多方市街（同5.8%pts）、白河駅周辺（同10.0%pts）、新白河駅周辺（同5.8%pts）、鶴ヶ城（同2.2%pts）など、複数のスポットにおいて、東京都居住者の比率が高まっている。

* 年末年始における郡山駅周辺での東京都居住者の比率は、全期間と比べて1.6%pts低下した。

※1 本分析では2024年12月28日（土）～2025年1月5日（日）を年末年始期間と定義した。

※2 グラフ中のデータラベルは小数点第2位以下を四捨五入しているため、グラフ中のデータラベルの差分と文章中の値（実際の差分）が一致しない場合がある。

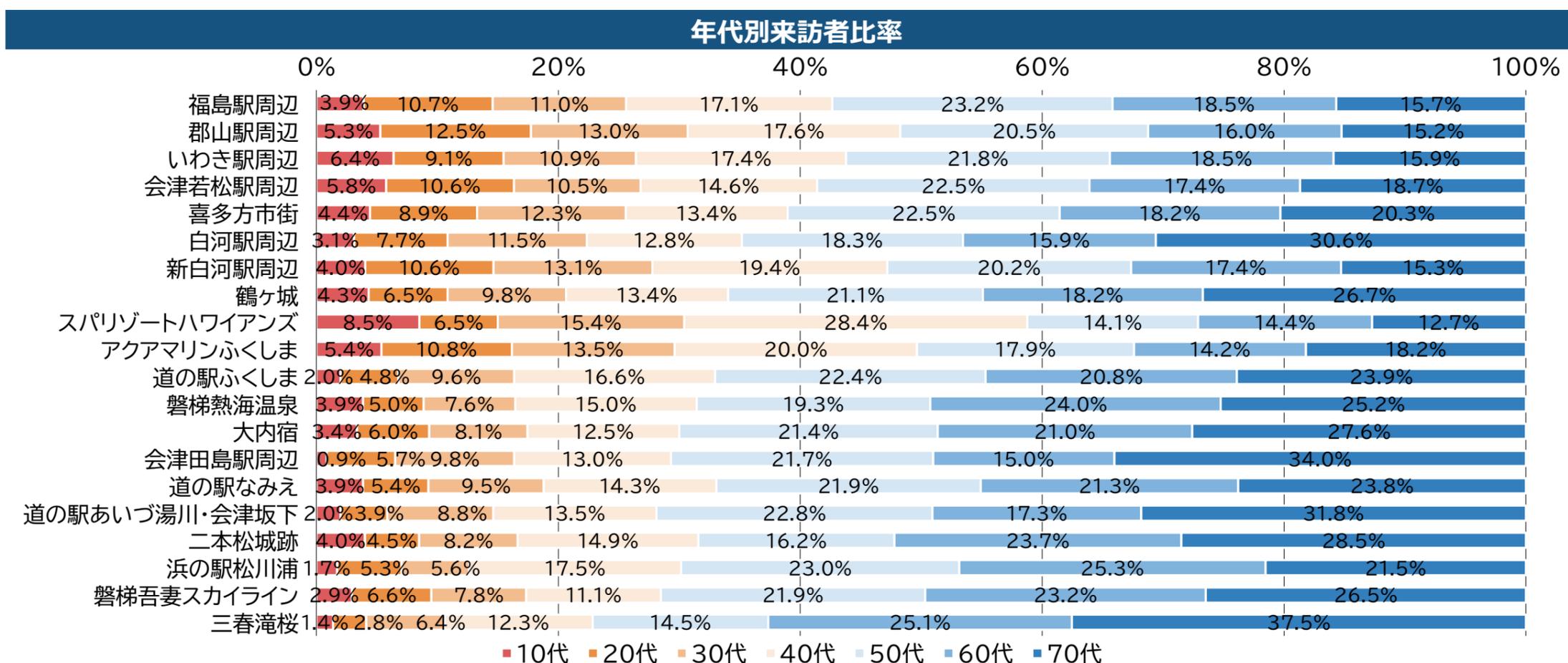


資料) クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」より作成

(3) 年代別来訪者比率

- 年代別来訪者比率について、20代以下の割合をみると、郡山駅周辺（17.7%*）、会津若松駅周辺（16.3%）の順で高く、中心駅・市街地以外では、アクアマリンふくしま（16.1%）、スパリゾートハワイアンズ（15.0%）の順で高い。
- 30-40代の比率をみると、スパリゾートハワイアンズ（44.8%）、アクアマリンふくしま（16.1%）の順で高い。
- 60代以上の比率について、三春滝桜（62.6%）、二本松城跡（52.2%）、磐梯吾妻スカイライン（49.7%）、磐梯熱海温泉（49.2%）、道の駅あいづ湯川・会津坂下（49.1%）、会津田島駅周辺（49.0%）、大内宿（48.6%）では、過半近くを占めている。

*グラフ中のデータラベルは小数点第2位以下を四捨五入しているため、グラフ中のデータラベルの合計値と文章中の値（実際の合計値）が一致しない場合がある。



注釈) 18歳以上の来訪者のデータを集計しているため、10代の比率が低くなっている。 資料) クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」より作成

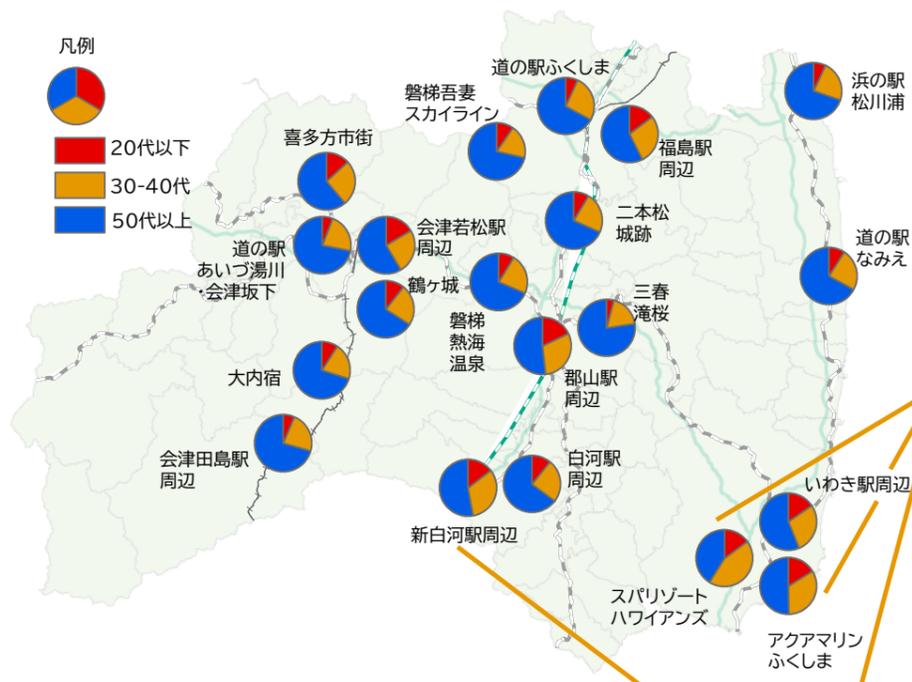
(4)まとめ

- 分析対象施設のうち、福島駅周辺、郡山駅周辺は、関東からの来訪者数が他施設より多く、また県内における拠点性も高いことから、プロモーション（ポスター・デジタルサイネージの展開等）に適した施設である。
- スパリゾートハワイアンズ、アクアマリンふくしま、新白河駅周辺は、来訪者に占める関東居住者の割合が高く、若年層の比率も高いことから、双方向的なコミュニケーションを取るプロモーション手法（イベントの開催や、移住相談ブースの設置/等）に適している。

関東からの来訪者数

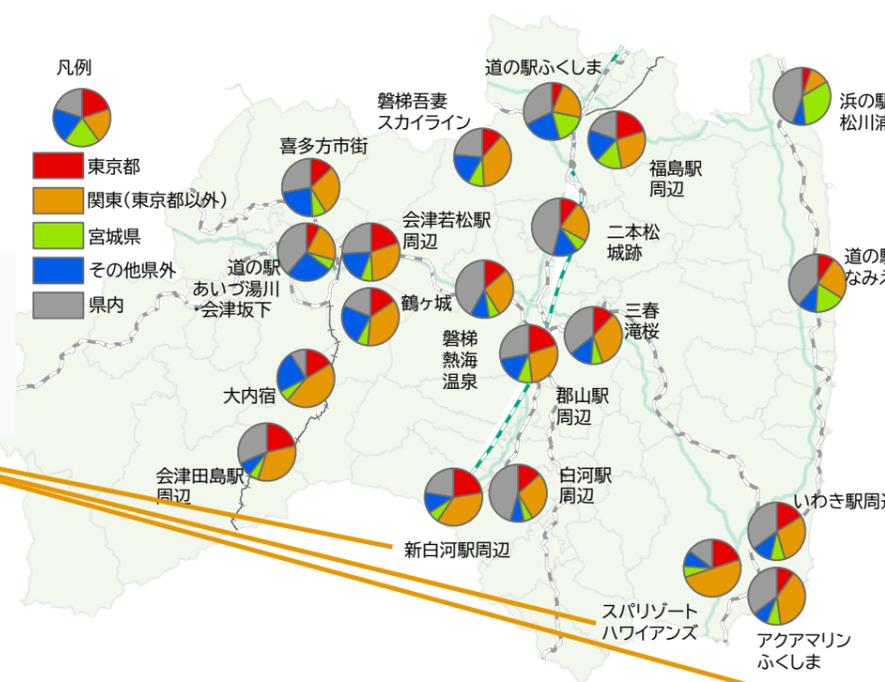


年代別来訪者比率



スパリゾートハワイアンズ、
 アクアマリンふくしま、
 新白河駅周辺は
 若年層の比率が高く、
 関東居住者の割合が高い

関東からの来訪者数



資料) 人流データ：クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」、地図データ：国土交通省「国土数値情報」より作成

(4)まとめ

(参考) データ一覧表

関東からの来訪者数が特に多い施設

来訪者における関東在住者、若年層比率が高い施設

		福島駅 周辺	郡山駅 周辺	いわき駅 周辺	会津若松 駅周辺	喜多方 市街	白河駅 周辺	新白河駅 周辺	鶴ヶ城	スパリゾート トワイア ンズ	アクア マリン ふくしま	道の駅 ふくしま	磐梯熱海 温泉	大内宿	会津田島 駅周辺	道の駅 なみえ	道の駅 あいづ湯川 ・会津坂下	二本松城 跡	浜の駅 松川浦	磐梯吾妻 スカイ ライン	三春滝桜
延べ推計 来訪者数	推計来訪者数(合計)	人数 13,007,223	12,946,440	5,230,337	2,341,511	2,109,166	1,797,657	1,790,177	1,403,548	1,187,289	1,043,407	808,887	794,617	477,140	426,740	415,429	405,177	219,123	205,250	184,659	120,013
		順位 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	東京都からの推計来訪者数	人数 2,396,074	2,351,527	752,190	416,375	258,712	217,637	386,778	208,824	236,720	102,645	49,917	105,470	77,841	86,691	38,639	29,808	21,315	10,433	20,962	14,266
		順位 1	2	3	4	6	8	5	9	7	11	14	10	13	12	15	16	17	20	18	19
関東(東京都以外)からの 推計来訪者数	人数 3,237,654	3,342,693	1,359,835	625,591	578,274	452,814	635,765	474,735	585,778	381,553	169,671	210,914	212,904	138,947	96,792	84,953	47,808	21,949	69,905	38,672	
	順位 2	1	3	5	7	9	4	8	6	10	13	12	11	14	15	16	18	20	17	19	
宮城県からの推計来訪者数	人数 1,946,427	1,104,176	403,871	151,327	158,531	87,744	110,167	84,666	74,819	82,497	138,691	47,842	29,705	22,567	70,895	23,063	14,543	66,260	17,107	7,963	
	順位 1	2	3	5	4	8	7	9	11	10	6	14	15	17	12	16	19	13	18	20	
居住地別 比率	観光客における東京都 居住者の割合	比率 20.1%	19.9%	16.2%	19.6%	12.8%	13.4%	22.4%	15.7%	20.1%	10.1%	6.4%	13.7%	16.3%	21.3%	9.7%	7.7%	10.2%	5.3%	11.4%	12.0%
		順位 3	5	8	6	12	11	1	9	4	16	19	10	7	2	17	18	15	20	14	13
	観光客における関東 (東京都以外)居住者の割合	比率 27.1%	28.2%	29.1%	29.5%	28.4%	28.1%	37.1%	35.7%	49.6%	37.6%	21.8%	27.5%	44.6%	33.6%	24.2%	21.7%	22.8%	11.0%	37.9%	32.6%
		順位 15	12	10	9	11	13	5	6	1	4	18	14	2	7	16	19	17	20	3	8
観光客における宮城県 居住者の割合	比率 1.6%	2.2%	6.9%	2.2%	3.5%	3.4%	2.3%	4.1%	11.8%	10.5%	3.5%	4.0%	5.4%	3.5%	6.4%	3.1%	2.6%	1.8%	6.0%	6.8%	
	順位 20	17	3	18	10	13	16	8	1	2	11	9	7	12	5	14	15	19	6	4	
年代別 比率	来訪者における20代以下 の割合	比率 14.6%	17.7%	15.5%	16.3%	13.3%	10.8%	14.6%	10.8%	15.0%	16.1%	6.8%	8.9%	9.3%	6.5%	9.3%	5.8%	8.5%	7.0%	9.5%	4.1%
		順位 7	1	4	2	8	9	6	10	5	3	17	14	12	18	13	19	15	16	11	20
来訪者における30-40代 の割合	比率 28.1%	30.5%	28.3%	25.1%	25.7%	24.3%	32.5%	23.2%	43.8%	33.5%	26.2%	22.6%	20.7%	22.8%	23.8%	22.3%	23.1%	23.1%	19.0%	18.7%	
	順位 6	4	5	9	8	10	3	12	1	2	7	16	18	15	11	17	14	13	19	20	
当該施設が併用された割合 (分析対象施設間)	比率 18.5%	26.4%	8.5%	10.8%	10.6%	4.4%	7.8%	15.8%	3.8%	10.1%	9.9%	5.0%	8.2%	1.9%	5.1%	5.9%	2.9%	3.3%	3.3%	2.4%	
	順位 2	1	8	4	5	14	10	3	15	6	7	13	9	20	12	11	18	16	17	19	

凡例 1位 2位 3位 4-5位 6-10位

資料) クロスロケーションズ株式会社「Location AI Platform」より作成